
子ども・子育て支援に関する調査報告書

令和7年1月

辰野町

目次

1	調査概要	2
(1)	調査の背景	2
(2)	調査の目的	2
(3)	調査の方法	2
(4)	調査票回収結果	2
(5)	本書の構成	3
(6)	その他	3
2	調査結果の要約	4
(1)	子どもの育ちをめぐる環境	4
(2)	母親や父親の子育てへの関わり方・就労状況	4
(3)	定期的な教育・保育事業等の利用状況と利用意向（未就学児童保護者）	4
(4)	不定期の預かりサービス等	5
(5)	学童クラブの利用意向	5
(6)	子育てにおける悩み等	5
(7)	辰野町の子育て環境・支援の満足度、子育て環境の向上策	5
3-1	未就学児童保護者の調査結果	6
(1)	回答者や子どもの属性	6
(2)	育ちをめぐる環境	8
(3)	保護者の就労状況	11
(4)	平日の定期的な教育・保育事業の利用状況・希望	14
(5)	休日等の定期的な教育・保育事業の利用希望	17
(6)	子どもが病気の際の対応	19
(7)	不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用	21
(8)	子どもの放課後の過ごし方（回答対象者：子どもが5歳以上）	24
(9)	仕事と子育ての両立（育児休業や短時間勤務制など）	27
(10)	子育てに対する意識	29
3-2	就学児童保護者の調査結果	33
(1)	回答者や子どもの属性	33
(2)	育ちをめぐる環境	35
(3)	保護者の就労状況	38
(4)	子どもが病気の際の対応	41
(5)	不定期の教育や宿泊を伴う一時預かり等の利用	43
(6)	子どもの放課後の過ごし方	46
(7)	仕事と子育ての両立（育児休業や短時間勤務制など）	47
(8)	子育てに対する意識	50

1 調査概要

(1) 調査の背景

子ども・子育て支援法で、市町村こども・子育て支援事業計画の策定が義務付けられたことを受けて、辰野町（以下、当町）においても、「第1期子ども・子育て支援事業計画（平成27～令和元年度）」、「第2期子ども・子育て支援事業計画（令和2～6年度）」を策定し、幼児期の教育・保育の提供や地域子育て支援事業の提供体制の整備等を図ってきた。

令和6年度に計画期間が終了することから、国や地域の動向、保護者や子どもを取り巻く環境を踏まえ、次の5年間の指針となる「第3期子ども・子育て支援事業計画（令和7～11年度）」を策定する。

(2) 調査の目的

本調査は、計画策定にあたり、本町における教育・保育・子育て支援の「量の見込み」を算出するとともに、保護者の意見を次期計画に反映させるために、以下の3点を目的として実施した。

- ① 子ども・子育て支援事業の「量の見込み」の算出
- ② 子育て家庭を取り巻く状況の把握
 - ・ こどもの世話について頼れる人がいるの有無
 - ・ 子育ての楽しさ、悩み
 - ・ 育児休業の取得状況
- ③ 辰野町の子育て環境の魅力を高めるための方策検討の材料
 - ・ 子育て環境に対する満足度
 - ・ 子育てに有用な情報、充実を希望するサービス 等

(3) 調査の方法

本調査は、辰野町在住で、0歳～小学校6年生の子どものいる保護者を対象とした。

その際、小学校に就学する前の児童と、就学している児童では利用できる事業が異なるため、別々に調査票を作成し、配布した。調査の概要を以下に示す。

	未就学児童	就学児童
調査対象者	0～5歳児の子どもを持つ保護者	小学校1～6年生の子どもを持つ保護者
対象世帯数	390世帯（無作為抽出調査）	765世帯（無作為抽出調査）
配布・回収方法	郵送調査・回答は紙又はインターネット回答から選択可能	
実施期間	2024年8月20日（火）～9月17日（火）	

(4) 調査票回収結果

未就学児童と就学児童の調査票回収状況は以下のとおりである。

	未就学児童	就学児童
配布数	390件	765件
回収数	184件	347件
回収率	47.2%	45.4%

(5) 本書の構成

章		掲載結果
3-1	未就学児童保護者の調査結果報告	0～5歳児の子どもを持つ保護者の結果を示している。
3-2	就学児童保護者の調査結果報告	小学校1～6年生の子どもを持つ保護者の結果を示している。

(6) その他

- ◆図表中の割合の合計は、小数点第2位を四捨五入した数値であるため、合計値が100%にならない場合がある。
- ◆図表中の「n」はNumber of caseの略で、「n＝」は該当質問の回答者数を表す。なお、無回答の処理によって、回答者数が異なる場合がある。
- ◆設問の選択肢が長い項目については、省略して記載している場合がある。
- ◆子どもの年齢は令和6年4月1日時点であり、下表のとおり学齢と同一である。本文では年齢表記をする。

【未就学児童】

学齢	年齢
0歳児	0歳
1歳児	1歳
2歳児	2歳
年少	3歳
年中	4歳
年長	5歳

【就学児童】

年齢	学齢
小学1年生	6歳
小学2年生	7歳
小学3年生	8歳
小学4年生	9歳
小学5年生	10歳
小学6年生	11歳

2 調査結果の要約

(1) 子どもの育ちをめぐる環境

- 日頃（日常的・緊急時）、子どもをみてもらえる人がいる答えた回答者は、未就学児童・就学児童の保護者ともに約9割で、多くが親族にみてもらうことができるとしている。その一方で、未就学児童保護者の12.0%、就学児童保護者の10.7%はみてもらえる人がいないと答えている。
- 子育てのことで相談できる先が「いない／ない」という回答は、未就学児童保護者で7.1%、就学児童保護者で11.4%である。就学児童保護者で高くなっている。

(2) 母親や父親の子育てへの関わり方・就労状況

①子育ての状況

- 子育てを主に行っている者は、「父母ともに」が、未就学児童保護者では73.9%、就学児童保護者では68.0%である。一方で、「主に母親」が、3割前後を占めており、父親の育児参加を進めていくことが必要である。

②母親や父親の働き方

- 母親が就労している（休業含む）世帯は9割以上である。就労形態としては、フルタイムがフルタイム以外をやや上回っている。就労をしていない母親の就労意向としては、未就学児童保護者は「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」（72.2%）、就学児童保護者は「1年より先に就労したい」（50.0%）が最も高い。
- 父親においても、フルタイムで就労している人が95%を超えている。

③仕事と子育ての両立の状況

- 育児休業について、母親が取得した割合は未就学児童保護者が64.2%、就学児童保護者が42.9%となっている。一方で、父親が取得した割合は未就学児童保護者が11.7%、就学児童保護者が4.6%であり、母親に比べると低い状況である。
- 取得していない理由をみると、仕事が忙しかった、職場に取得しにくい雰囲気があった等が主になっている。

(3) 定期的な教育・保育事業等の利用状況と利用意向（未就学児童保護者）

①平日の定期的な教育・保育事業の利用状況・希望

- 保育園や幼稚園などの定期的な教育・保育事業を利用していると回答した人は95.1%である。利用しているのは、保育園が93.7%を占め、週に5日、1日あたり7～10時間という利用形態が主となっている。
- 定期的に利用したい事業としては、保育園が84.2%と最も高いが、実際に利用されていない「小規模な保育施設」や「幼稚園」への要望もある。

②土日祝日の定期的な教育・保育事業の利用状況

- 土曜日に定期的な教育・保育事業の利用希望がある人は14.7%であり、日曜日・祝日に利用希望がある人は10.9%である。

(4) 不定期の預かりサービス等

①病児・病後児保育の利用意向

- ・子どもが病気やケガで通園等ができなかったときは、8割以上は母親が休んで対応したが、父親が休んだ家庭も含め、その全員が「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」という意向を持っている。

②一時預かりや宿泊を伴う預かり

- ・未就学児童保護者、就学児童保護者ともに、親の通院や不定期の仕事等での一時預かりは約98%が利用していないとしているが、そのうち、サービスの利用方法がわからない、利用したいサービスが近くにない等の理由で利用していない回答者もそれぞれ1割程度いる。一時預かりの利用意向がある割合は未就学児童保護者が32.1%、就学児童保護者が14.7%であり、潜在的には需要があると言える。
- ・宿泊を伴う預かり（ショートステイ）の利用意向は、未就学児童保護者の7.1%、就学児童保護者の7.8%が持っている。

(5) 学童クラブの利用意向

①平日

- ・小学校における放課後の過ごし方としては、未就学児童保護者（5歳児のみ）は、「学童クラブ」の利用意向が最も高くなっている。一方で、就学児童保護者は、「自宅」の意向を持った割合が最も高く、次いで、低学年においては「学童クラブ」（44.7%）、高学年においては「習い事」（36.8%）である。

②長期休暇期間中（未就学児童保護者）

- ・長期休暇期間中の学童クラブの利用意向は、「高学年（4～6年生）まで利用したい」が59.1%と半数以上を占めており、低学年までの利用意向と合わせて77.3%が利用意向を持っている。

(6) 子育てにおける悩み等

- ・子育てする上での子どもについての悩みや気になることは、未就学児童保護者は「病気や発育発達に関すること」、就学児童保護者は「子どもの教育に関すること」が最も高い。
- ・保護者自身の悩みや気になることは、未就学児童保護者、就学児童保護者ともに「自分の時間が十分取れないこと」、「出費がかさむこと」の割合が高くなっている。
- ・出産時に働いていなかった、または育休を取得した者の仕事と子育ての両立で大変だったことは、「代わりに子どもを見てくれる人がいない」といった子育ての環境、「子どもと接する時間が少ない」といった自身の要望についての不充足感、「残業や出張が入る」といった仕事の制約等が挙げられている。

(7) 辰野町の子育て環境・支援の満足度、子育て環境の向上策

①子育て環境や支援への満足度

- ・子育ての満足度は、「子育てしやすさ」「犯罪被害にあうことが少ない」という項目は相対的に満足度が高い一方で、「小児医療体制」については満足度が低い。

②辰野町の子育て環境を向上させるために必要だと思うこと

- ・充実を希望するサービスとしては、未就学児童保護者は「経済的支援」、就学児童保護者は「医療機関を利用できる体制の整備」が最も高くなっている。
- ・子育てをするうえでほしい情報としては、経済的支援や公的制度の周知等の公的支援に関する事項の割合が高くなっている。

3-1 未就学児童保護者の調査結果

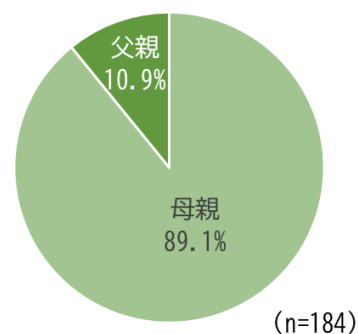
(1) 回答者や子どもの属性

1) 回答者の属性

- ・ 回答者は「母親」が 89.1%と多くを占めている。
- ・ 配偶者がいると答えた割合は 95.1%と多くを占めている。
- ・ 子育てを主に行っている者は「父母ともに」（73.9%）が最も高く、次いで「主に母親」（25.0%）となっている。

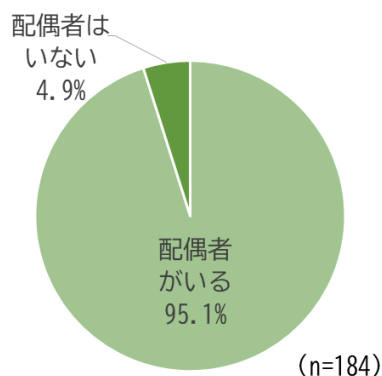
図表 1 調査票の回答者 [問 4]

項目	度数(人)	割合(%)
母親	164	89.1
父親	20	10.9
合計	184	100.0



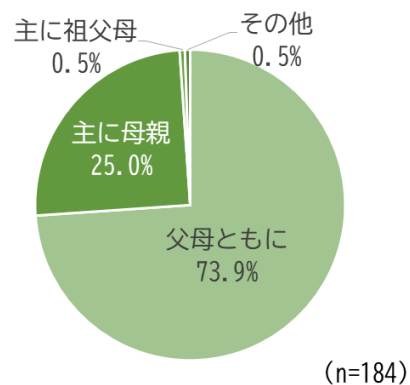
図表 2 配偶者の有無 [問 5]

項目	度数(人)	割合(%)
配偶者がいる	175	95.1
配偶者はいない	9	4.9
合計	184	100.0



図表 3 子育てを主に行っている者 [問 6]

項目	度数(人)	割合(%)
父母ともに	136	73.9
主に母親	46	25.0
主に祖父母	1	0.5
その他	1	0.5
合計	184	100.0

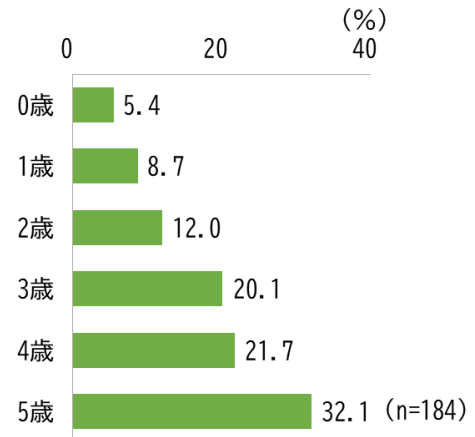


2) 子どもの属性

- ・ 回答者の子どもの年齢は、5歳（32.1%）が最も高く、年齢が下がると割合が下がっていく。
- ・ 兄弟の数は2人（41.8%）が最も高く、次いで「3人」（25.5%）となっている。
- ・ 居住地域は、「宮木」（21.7%）と最も高く、次いで「平出」（14.7%）となっている。

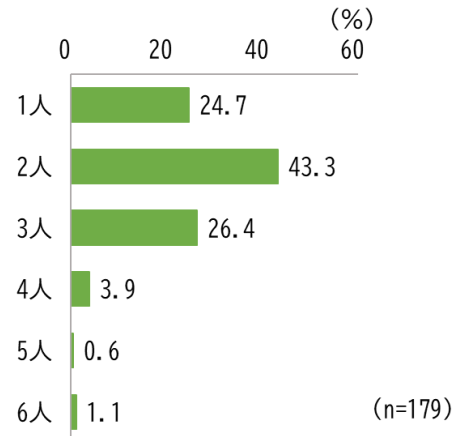
図表 4 調査対象の子どもの年齢 [問 2]
(令和6年4月1日時点の年齢)

項目	度数(人)	割合(%)
0歳	10	5.4
1歳	16	8.7
2歳	22	12.0
3歳	37	20.1
4歳	40	21.7
5歳	59	32.1
合計	184	100.0



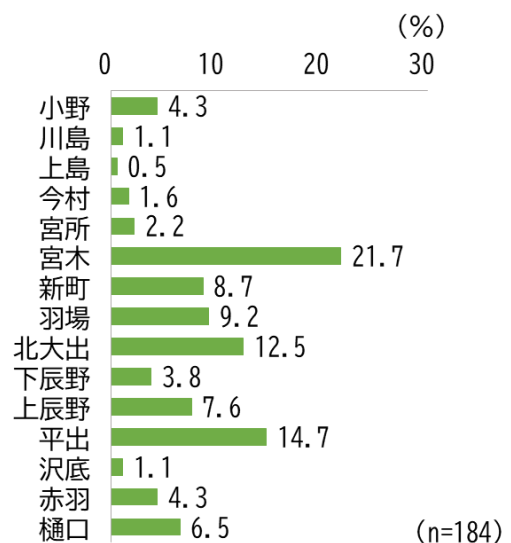
図表 5 調査対象の子どもの兄弟の数 [問 3]

項目	度数(人)	割合(%)
1人	44	24.7
2人	77	43.3
3人	47	26.4
4人	7	3.9
5人	1	0.6
6人	2	1.1
合計	178	100.0



図表 6 居住地域 [問 1]

項目	度数(人)	割合(%)
小野	8	4.3
川島	2	1.1
上島	1	0.5
今村	3	1.6
宮所	4	2.2
宮木	40	21.7
新町	16	8.7
羽場	17	9.2
北大出	23	12.5
下辰野	7	3.8
上辰野	14	7.6
平出	27	14.7
沢底	2	1.1
赤羽	8	4.3
樋口	12	6.5
合計	184	100.0

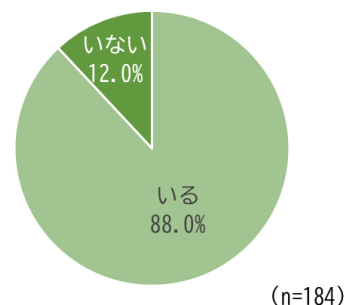


(2) 育ちをめぐる環境

- ・ 日頃お子さんをみてもらえる人は、88.0%があると回答しており、そのうち、「親族（用事等の際）」（68.5%）が最も高く、次いで「親族（日常的）」（43.8%）となっている。みてもらえる人がいないと回答したのは12.0%となっている。
- ・ お子さんをみてもらっていることに対しては、親族に対し、「安心してみてもらえる」（49.7%）が最も高い一方で、次いで「身体的負担が大きく心配」（32.1%）、「時間的制約や精神的な負担が大きく心配」（30.8%）となっている。

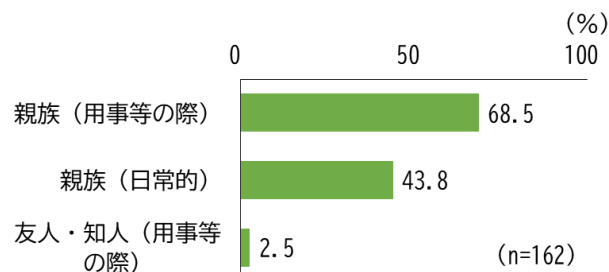
図表 7 日頃、お子さんをみてもらえる人の有無 [問 7]

項目	度数(人)	割合(%)
いる	162	88.0
いない	22	12.0
合計	184	100.0

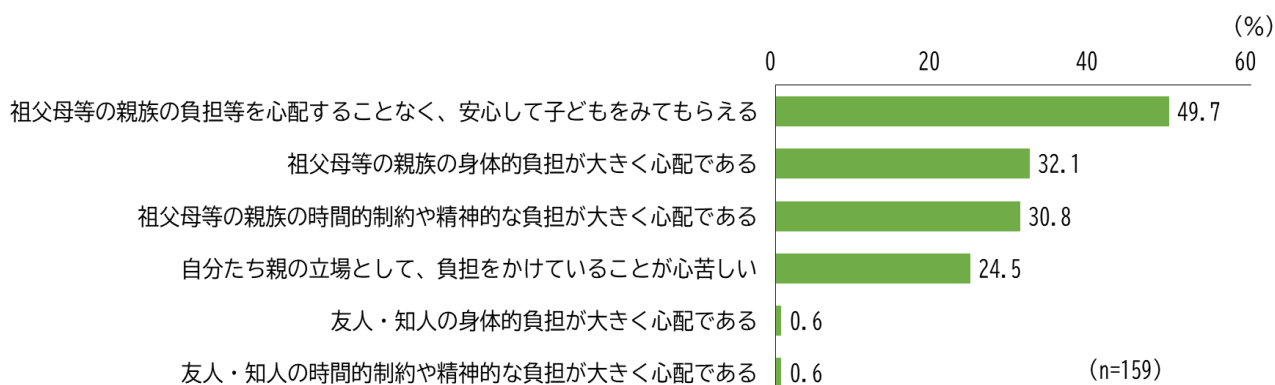


図表 8 日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人（複数回答） [問 7]

	度数(人)	割合(%)
親族（用事等の際）	111	68.5
親族（日常的）	71	43.8
友人・知人（用事等の際）	4	2.5
回答者数	162	



図表 9 お子さんをみてもらっていることに対する気持ち（複数回答） [問 7-1]

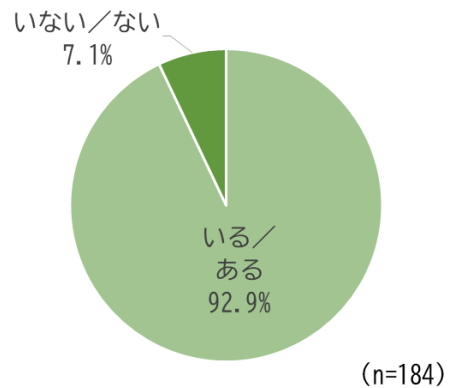


	度数(人)	割合(%)
祖父母等の親族の負担等を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる	79	49.7
祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である	51	32.1
祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である	49	30.8
自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい	39	24.5
友人・知人の身体的負担が大きく心配である	1	0.6
友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である	1	0.6
回答者数	159	

- ・子育てのことで相談できる人や場所については、「いる／ある」（92.9%）と多くを占めている。一方で、「いない／ない」という回答も7.1%みられる。
- ・子育てに関して、気軽に相談する先としては「配偶者」（81.9%）が最も高く、次いで「祖父母等の親族」（77.8%）、「友人や知人」（46.2%）となっている。
- ・気軽に相談する先がない者について、53.8%の回答者が相談先が欲しいと回答している一方で、46.2%は必要ないとしている。希望する相談先としては「職場」「児童発達支援事業所」「心理士」が挙げられている。

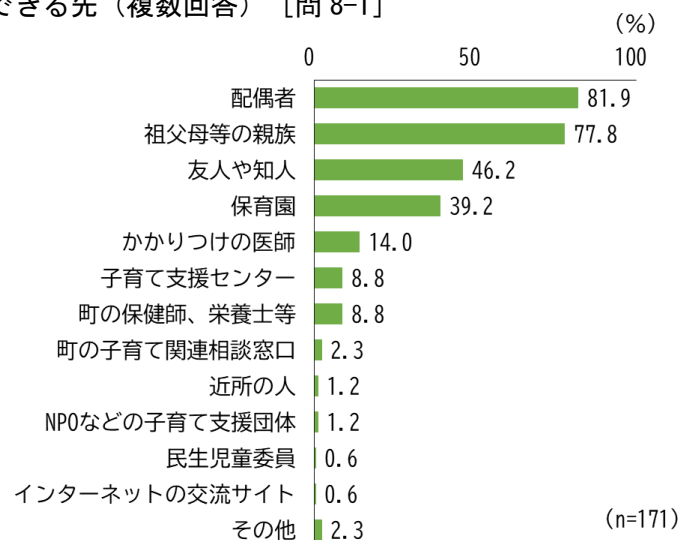
図表 10 子育て（教育を含む）のことで気軽に相談できる人・場所の有無 [問 8]

項目	度数(人)	割合(%)
いる／ある	171	92.9
いない／ない	13	7.1
合計	184	100.0



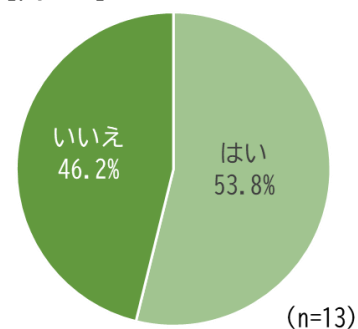
図表 11 <回答対象者：子育て（教育を含む）のことで相談できる人（場所）がいる（ある）者>
子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先（複数回答） [問 8-1]

	度数(人)	割合(%)
配偶者	140	81.9
祖父母等の親族	133	77.8
友人や知人	79	46.2
保育園	67	39.2
かかりつけの医師	24	14.0
子育て支援センター	15	8.8
町の保健師、栄養士等	15	8.8
町の子育て関連相談窓口	4	2.3
近所の人	2	1.2
NP0などの子育て支援団体	2	1.2
民生児童委員	1	0.6
インターネットの交流サイト	1	0.6
その他	4	2.3
回答者数	171	



図表 12 <回答対象者：子育て（教育を含む）のことで相談できる人（場所）がない（ない）者>
子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先の需要 [問 8-2]

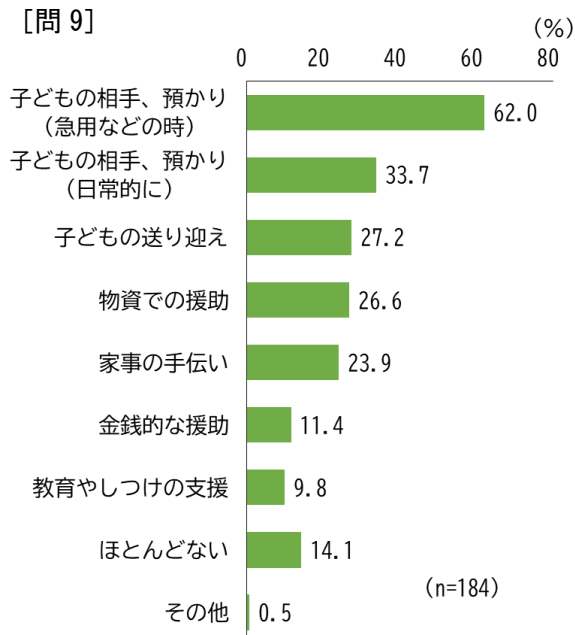
項目	度数(人)	割合(%)
はい	7	53.8
いいえ	6	46.2
合計	13	100.0



- ・ 回答者の親から受けている子育ての支援としては、「子どもの相手、預かり（急用などの時）」（62.0%）が最も高く、次いで「子どもの相手、預かり（日常的に）」（33.7%）となっている。
- ・ 子育てに最も影響すると思われる環境としては、「家庭」（83.7%）が最も高く、次いで「保育園」（12.5%）となっている。

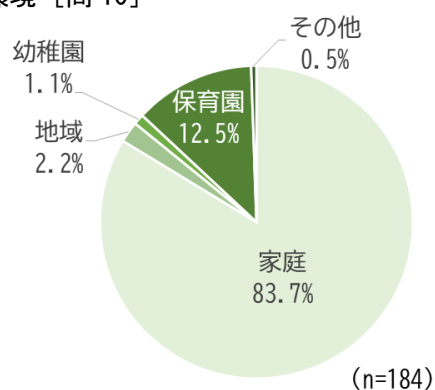
図表 13 親から受けている子育ての支援（複数回答） [問 9]

	度数（人）	割合（%）
子どもの相手、預かり（急用などの時）	114	62.0
子どもの相手、預かり（日常的に）	62	33.7
子どもの送り迎え	50	27.2
物資での援助	49	26.6
家事の手伝い	44	23.9
金銭的な援助	21	11.4
教育やしつけの支援	18	9.8
ほとんどない	26	14.1
その他	1	0.5
回答者数	184	



図表 14 子育て（教育を含む）に最も影響すると思われる環境 [問 10]

項目	度数(人)	割合 (%)
家庭	154	83.7
地域	4	2.2
幼稚園	2	1.1
保育園	23	12.5
その他	1	0.5
合計	184	100.0

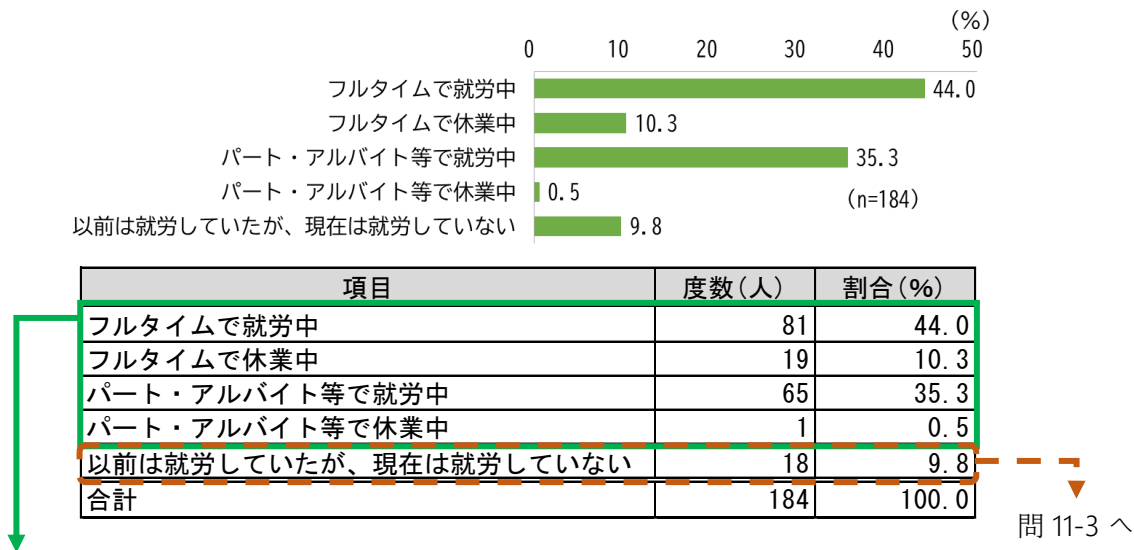


(3) 保護者の就労状況

1) 母親の就労状況

- ・ 就労している母親（休業含む）は 90.2%と多くを占めている。そのうち、フルタイムとフルタイム（パート・アルバイト等）以外の割合をみると、フルタイムは 54.3%、フルタイム以外は 35.6%とフルタイムが多くなっている。
- ・ フルタイム就労している母親の 1 週当たりの就労日数は「5 日」（82.7%）が最も高く、1 日あたりの就労時間は「8 時間」（32.5%）が最も高くなっている。
- ・ パート・アルバイトで働いている母親のフルタイムへの転換希望としては、半数以上の 59.1%がフルタイムへの転換を希望しているが、「実現見込あり」としているのは 27.1%に留まっている。

図表 15 母親の現在の就労状況（自営業、家族従事者を含む） [問 11]



図表 16 <回答対象者：就労している母親> 現在、就労している母親の就労日数、就労時間 [問 11-1]

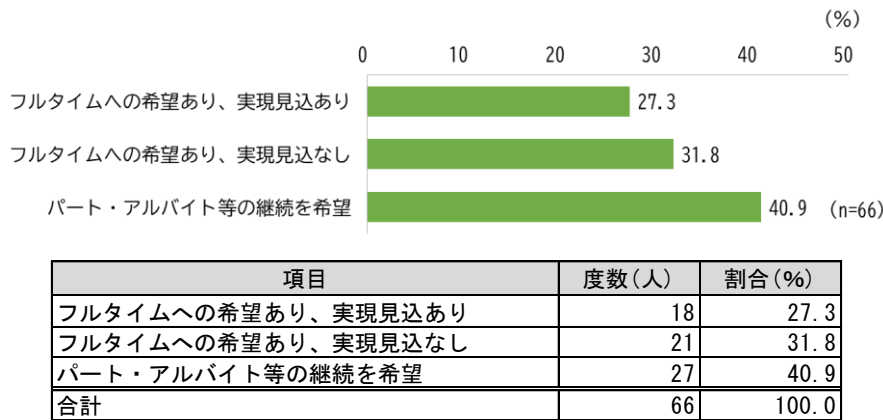
◆週あたり就労日数

項目	度数(人)	割合(%)
1日	3	1.9
2日	2	1.2
3日	4	2.5
4日	11	6.8
5日	134	82.7
6日	7	4.3
7日	1	0.6
合計	162	100.0

◆1日あたり就労時間

項目	度数(人)	割合(%)
4時間未満	3	1.8
4時間	8	4.9
5時間	13	8.0
6時間	44	27.0
7時間	33	20.2
8時間	53	32.5
9時間	6	3.7
10時間	2	1.2
11時間	1	0.6
合計	163	100.0

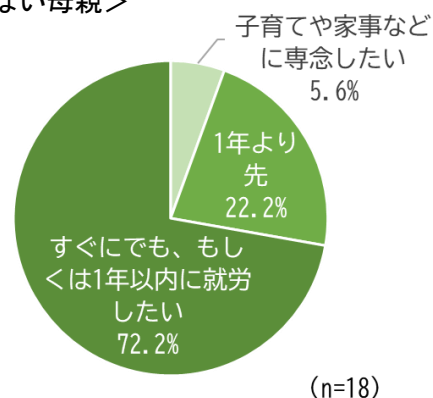
図表 17 <回答対象者：フルタイム以外で就労中の母親> フルタイムへの転換希望 [問 11-2]



・ 就労していない母親の意向は、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」（72.2%）が最も高くなっている。希望する就労形態は、フルタイムが92.3%と多くを占めている。

図表 18 <回答対象者：以前は就労していたが、現在は就労していない母親>
就労等についての意向 [問 11-3]

項目	度数(人)	割合(%)
子育てや家事などに専念したい	1	5.6
1年より先に就労したい	4	22.2
すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい	13	72.2
合計	18	100.0



就労したいタイミングの末子の年齢 [問 11-3]

項目	度数(人)	割合(%)
4歳	1	25.0
5歳	1	25.0
6歳	1	25.0
7歳	1	25.0
合計	4	100.0

図表 19 <回答対象者：すぐにでも、または1年以内に就労したい母親>
希望する就労形態 [問 11-3]

項目	度数(人)	割合(%)
フルタイム	1	7.7
パートタイム、アルバイト等	12	92.3
合計	13	100.0

図表 20 <回答対象者：すぐにでも、または1年以内に就労したい母親>
希望する就労日数、就労時間 [問 11-3]

◆週あたり希望就労日数

項目	度数(人)	割合(%)
3日	2	18.2
4日	3	27.3
5日	5	45.5
7日	1	9.1
合計	11	100.0

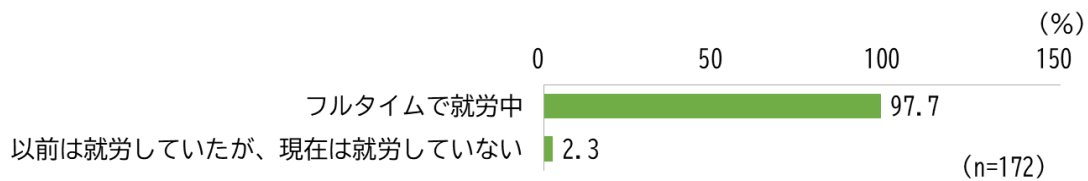
◆1日あたり希望就労時間

項目	度数(人)	割合(%)
3時間	1	8.3
4時間	2	16.7
5時間	2	16.7
6時間	5	41.7
7時間	2	16.7
合計	12	100.0

2) 父親の就労状況

- ・ 父親の就労状況は、「フルタイムで就労中」が 97.7%と多くを占めている。
- ・ フルタイム就労している父親の 1 週当たりの就労日数は「5 日」（81.4%）が最も高く、1 日あたりの就労時間は「8 時間」（43.4%）が最も高くなっている。

図表 21 父親の現在の就労状況（自営業、家族従事者を含む）〔問 11〕



項目	度数(人)	割合 (%)
フルタイムで就労中	168	97.7
以前は就労していたが、現在は就労していない	4	2.3
合計	172	100.0

図表 22 <回答対象者：就労している者>

現在、就労している父親の就労日数、就労時間〔問 11-1〕

◆週あたり就労日数

項目	度数(人)	割合 (%)
3日	1	0.6
4日	1	0.6
5日	136	81.4
6日	27	16.2
7日	2	1.2
合計	167	100.0

◆1 日あたり就労時間

項目	度数(人)	割合 (%)
7時間	2	1.2
8時間	72	43.4
9時間	28	16.9
10時間	32	19.3
11時間	16	9.6
12時間	11	6.6
13時間	2	1.2
14時間	2	1.2
24時間	1	0.6
合計	166	100.0

3) 婚姻状況、就労状況による家庭類型

- ・ 8つの家庭類型のうち、「タイプ B（両親がフルタイム就労）」（51.4%）が最も高く、次いで「タイプ C（フルタイム×パートタイム、保育の必要性あり）」（27.1%）となっている。
- ・ 第 2 期計画策定時の調査と比較すると、タイプ B の割合が 11.3 ポイント増加し、タイプ D（専業主婦（夫））の割合が 7.1 ポイント減少した。

図表 A 現在の保護者の婚姻状況、就労状況による家庭類型

	A	B	C	C'	D	E	E'	F
第2期(n=272)	9.6	40.1	27.6	4.8	17.6	0.4	0.0	0.0
第3期(n=181)	5.0	51.4	27.1	6.1	10.5	0.0	0.0	0.0

保護者の婚姻状況及び就労状況による家庭類型

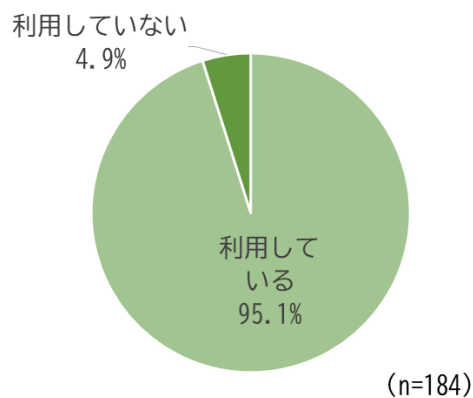
- | | |
|-------------------------------------|--------------------------------------|
| A . . . ひとり親 | D . . . 専業主婦（夫） |
| B . . . フルタイム×フルタイム | E . . . パートタイム×パートタイム
（保育の必要性あり） |
| C . . . フルタイム×パートタイム
（保育の必要性あり） | E' . . . パートタイム×パートタイム
（保育の必要性なし） |
| C' . . . フルタイム×パートタイム
（保育の必要性なし） | F . . . 無業×無業 |

(4) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況・希望

- ・ 現在、平日に定期的な教育・保育事業を利用している者は 95.1%と多くを占めている。
- ・ 現在利用している教育・保育事業としては、「保育園」(93.7%)が多くを占めている。

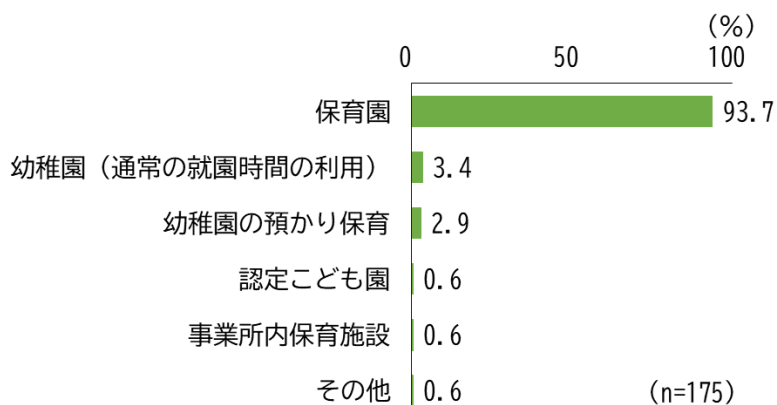
図表 23 平日の定期的な教育・保育の事業の利用の有無 [問12]

項目	度数(人)	割合(%)
利用している	175	95.1
利用していない	9	4.9
合計	184	100.0



図表 24 <回答対象者：定期的な教育・保育の事業を利用している者>

現在、平日に利用している教育・保育の事業（複数回答）[問12-1]



	度数(人)	割合(%)
保育園	164	93.7
幼稚園（通常の就園時間の利用）	6	3.4
幼稚園の預かり保育	5	2.9
認定こども園	1	0.6
事業所内保育施設	1	0.6
その他	1	0.6
回答者数	175	

図表 25 <回答対象者：定期的な教育・保育の事業を利用している者>

平日利用している教育・保育事業の現状と希望 [問12-2]

※日数・時間及び回数の端数は切り上げ

【週あたりの利用日数】

①現状

項目	度数(人)	割合(%)
5日	153	97.5
6日	4	2.5
合計	157	100.0

②希望

項目	度数(人)	割合(%)
3日	1	1.1
4日	1	1.1
5日	87	93.5
6日	4	4.3
合計	93	100.0

【一日あたりの利用時間】

①現状

項目	度数(人)	割合(%)
6時間	9	6.6
7時間	44	32.1
8時間	30	21.9
9時間	33	24.1
10時間	18	13.1
11時間	3	2.2
合計	137	100.0

②希望

項目	度数(人)	割合(%)
6時間	4	4.8
7時間	20	24.1
8時間	22	26.5
9時間	21	25.3
10時間	10	12.0
11時間	2	2.4
12時間	4	4.8
合計	83	100.0

【利用開始時刻】

①現状

項目	度数(人)	割合(%)
7時	6	6.2
8時	55	56.7
9時	35	36.1
10時	1	1.0
合計	97	100.0

②希望

項目	度数(人)	割合(%)
7時	7	10.0
8時	37	52.9
9時	26	37.1
合計	70	100.0

【利用終了時刻】

①現状

項目	度数(人)	割合(%)
15時	3	3.1
16時	48	49.5
17時	26	26.8
18時	18	18.6
19時	2	2.1
合計	97	100.0

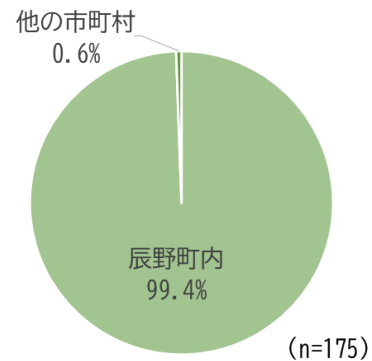
②希望

項目	度数(人)	割合(%)
15時	3	4.3
16時	25	35.7
17時	21	30.0
18時	17	24.3
19時	4	5.7
合計	70	100.0

- ・ 平日に定期的な教育・保育を利用している場所は、「辰野町内」が 99.4%と殆どを占めている。
- ・ 平日に定期的な教育・保育の事業を利用していない理由としては、「自身や配偶者などが働かずに子どもの面倒をみている」(66.7%)が最も高くなっている。
- ・ 平日に定期的に利用したい事業は、「保育園」(84.2%)が最も高く、他は 10%未満となっている。
- ・ 幼稚園や保育園など、定期的に利用したい場所は「辰野町内」(87.5%)が最も高くなっている。

図表 26 利用している施設や事業の所在 [問 12-3]

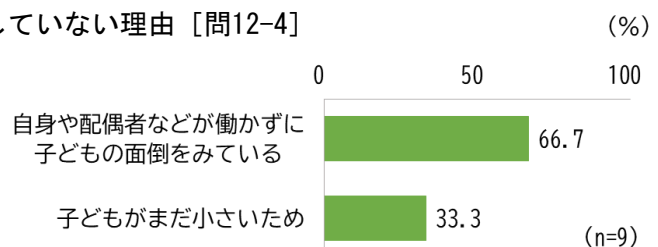
項目	度数(人)	割合(%)
辰野町内	174	99.4
他の市町村	1	0.6
合計	175	100.0



図表 27 <回答対象者：定期的な教育・保育の事業を利用していない者>

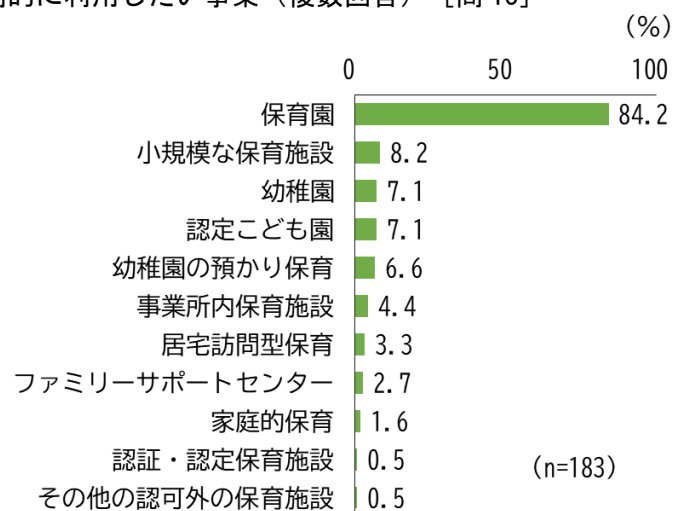
平日に定期的な教育・保育の事業を利用していない理由 [問12-4]

項目	度数(人)	割合(%)
自身や配偶者などが働かずに子どもの面倒をみている	6	66.7
子どもがまだ小さいため	3	33.3
合計	9	100.0



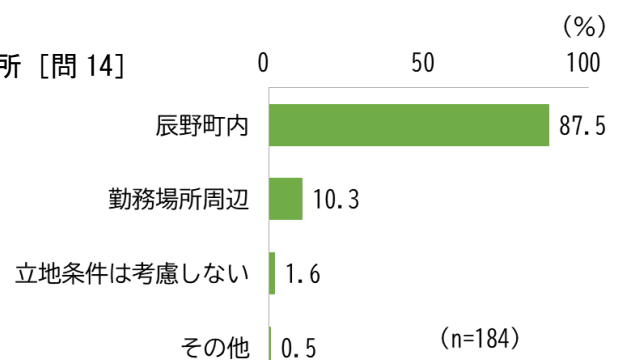
図表 28 お子さんが平日（月曜日～金曜日）に定期的に利用したい事業（複数回答） [問 13]

	度数(人)	割合(%)
保育園	154	84.2
小規模な保育施設	15	8.2
幼稚園	13	7.1
認定こども園	13	7.1
幼稚園の預かり保育	12	6.6
事業所内保育施設	8	4.4
居宅訪問型保育	6	3.3
ファミリーサポートセンター	5	2.7
家庭的保育	3	1.6
認証・認定保育施設	1	0.5
その他の認可外の保育施設	1	0.5
回答者数	183	



図表 29 定期的に利用（幼稚園や保育園など）したい場所 [問 14]

項目	度数(人)	割合(%)
辰野町内	161	87.5
勤務場所周辺	19	10.3
立地条件は考慮しない	3	1.6
その他	1	0.5
合計	184	100.0



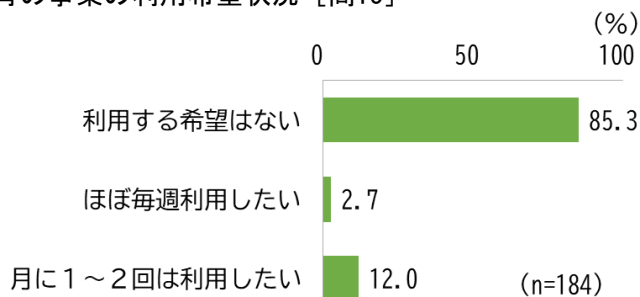
(5) 休日等の定期的な教育・保育事業の利用希望

- ・土曜日に定期的な教育・保育事業の利用希望がある者は14.7%であり、日曜日に利用希望がある者は10.9%である。
- ・たまに利用したい理由としては「月に数回仕事が入るため」(78.6%)が最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(42.9%)となっている。

図表 30 土曜日と日曜日・祝日の定期的な教育・保育の事業の利用希望状況 [問15]

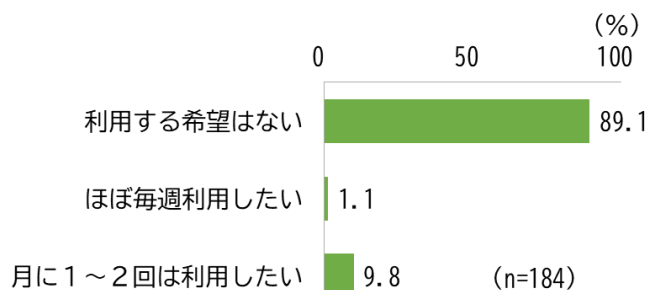
①土曜日

項目	度数(人)	割合(%)
利用する希望はない	157	85.3
ほぼ毎週利用したい	5	2.7
月に1～2回は利用したい	22	12.0
合計	184	100.0



②日曜日・祝日

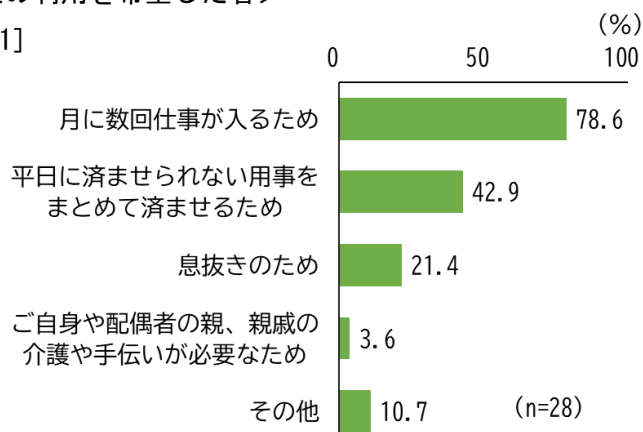
項目	度数(人)	割合(%)
利用する希望はない	164	89.1
ほぼ毎週利用したい	2	1.1
月に1～2回は利用したい	18	9.8
合計	184	100.0



図表 31 <回答対象者：定期的な教育・保育の事業の利用を希望した者>

たまに利用したい理由(複数回答) [問15-1]

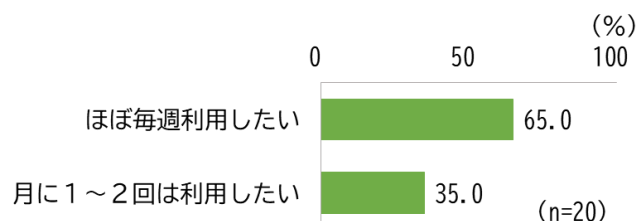
	度数(人)	割合(%)
月に数回仕事が入るため	22	78.6
平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため	12	42.9
息抜きのため	6	21.4
ご自身や配偶者の親、親戚の介護や手伝いが必要なため	1	3.6
その他	3	10.7
回答者数	28	



- ・ 幼稚園を利用している保護者のうち、全員が長期休暇期間中に教育・保育事業の利用希望を持っている。頻度としては、「ほぼ毎週」（65.0%）が最も高くなっている。
- ・ 利用したい理由としては「月に数回仕事が入るため」（78.6%）が最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」（42.9%）となっている。

図表 32 幼稚園を利用している者の、長期休暇期間中の教育・保育の事業の利用希望 [問 16]

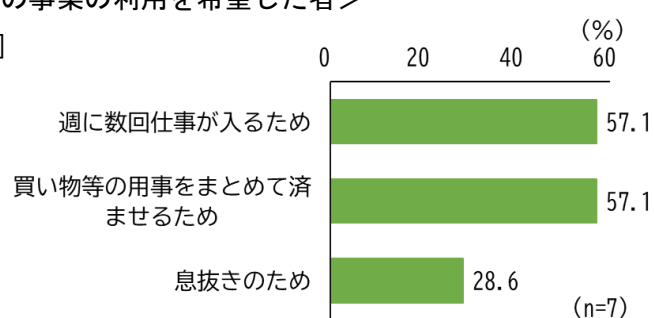
項目	度数(人)	割合(%)
ほぼ毎週利用したい	13	65.0
月に1～2回は利用したい	7	35.0
合計	20	100.0



図表 33 <回答対象者：長期休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望した者>

たまに利用したい理由（複数回答）[問16-1]

	度数(人)	割合(%)
週に数回仕事が入るため	4	57.1
買い物等の用事をまとめて済ませるため	4	57.1
息抜きのため	2	28.6
回答者数	7	



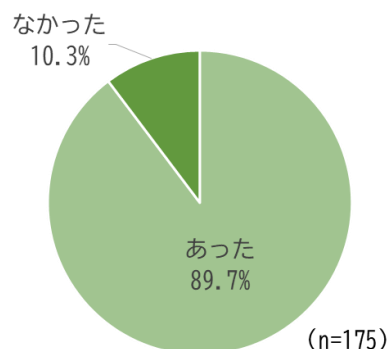
(6) 子どもが病気の際の対応

- ・この1年間で子どもが病気やケガで通園等ができなかったことがある者の割合は89.7%と多くを占めている。
- ・その際の対処方法としては、「母親が休んだ」(90.6%)が最も高く、次いで「父親が休んだ」(54.3%)、「親戚・友人等にみてもらった」(53.5%)となっている。
- ・子どもが病気やケガで通園等ができなかったときに、父親または母親が休んだ者は、全員が「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」という意向を持っている。

図表 34 <回答対象者：定期的な教育・保育の事業を利用している者>

この1年間、病気やケガで子どもが保育園や幼稚園等を欠席したことの有無 [問 17]

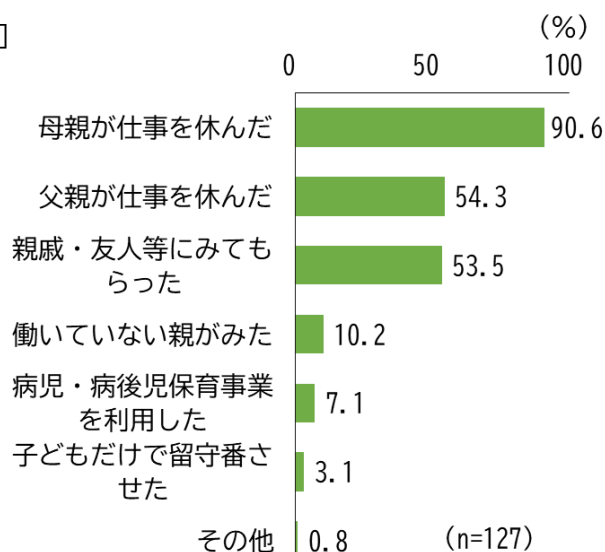
項目	度数(人)	割合(%)
あった	157	89.7
なかった	18	10.3
合計	175	100.0



図表 35 <回答対象者：この1年に病気やケガで子どもが保育園や幼稚園等を欠席した者>

欠席した場合の対処方法(複数回答) [問17-1]

項目	度数(人)	割合(%)
母親が仕事を休んだ	115	90.6
父親が仕事を休んだ	69	54.3
親戚・友人等にみてもらった	68	53.5
働いていない親がみた	13	10.2
病児・病後児保育事業を利用した	9	7.1
子どもだけで留守番させた	4	3.1
その他	1	0.8
回答者数	127	



図表 36 <回答対象者：この1年に子どもが保育園や幼稚園等を欠席し、その際、両親いずれかが対応した者>

病児・病後児のための保育施設等の利用希望 [問 17-2]

項目	度数(人)	割合(%)
できれば利用したい	80	100.0
合計	80	100.0

【各対処方法別の日数】

①父親が休んだ日数

項目	度数(人)	割合(%)
1日	12	17.4
2日	15	21.7
3日	14	20.3
5日	13	18.8
7日	3	4.3
10日以上	12	17.4
合計	69	100.0

②母親が休んだ日数

項目	度数(人)	割合(%)
1日	4	3.5
2日	6	5.2
3日	9	7.8
4日	2	1.7
5日	24	20.9
6日	3	2.6
7日	8	7.0
8日	2	1.7
9日	1	0.9
10～14日	28	24.3
15～19日	10	8.7
20～29日	10	8.7
30日以上	8	7.0
合計	115	100.0

③子どもだけで留守番させた日数

項目	度数(人)	割合(%)
1日	1	25.0
2日	1	25.0
3日	2	50.0
合計	4	100.0

④親族・友人等にみてもらった日数

項目	度数(人)	割合(%)
1日	6	8.8
2日	13	19.1
3日	13	19.1
5日	16	23.5
7日	1	1.5
8日	3	4.4
10日以上	16	23.5
合計	68	100.0

⑤働いていない親がみた日数

項目	度数(人)	割合(%)
1日	1	7.7
2日	2	15.4
5日	2	15.4
6日	1	7.7
7日	1	7.7
10日以上	6	46.2
合計	13	100.0

⑥病児・病後児保育を利用した日数

項目	度数(人)	割合(%)
1日	1	11.1
2日	2	22.2
3日	2	22.2
5日	1	11.1
8日	2	22.2
10日	1	11.1
合計	9	100.0

⑦その他の日数

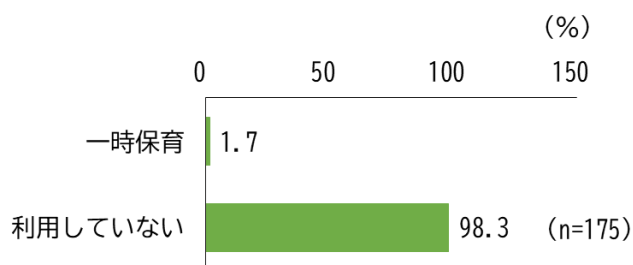
項目	度数(人)	割合(%)
5日	1	100.0
合計	1	100.0

(7) 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用

- ・ 親の通院、不定期の仕事等の理由で不定期に利用している事業の有無については、98.3%が「ない」としている。利用した者（1.7%）の事業は「一時保育」となっている。
- ・ 利用していない理由としては、「特に利用する必要がない」（76.2%）が最も高く、具体的な回答としては、「手続きなどサービスの利用方法がわからなかった」（18.6%）が最も高くなっている。

図表 37 私用、親の通院、不定期の就労等の目的で保育園の一時保育や幼稚園の預かり保育等を不定期に利用した事業、利用日数 [問 18]

	度数（人）	割合（%）
一時保育	3	1.7
利用していない	172	98.3
回答者数	175	

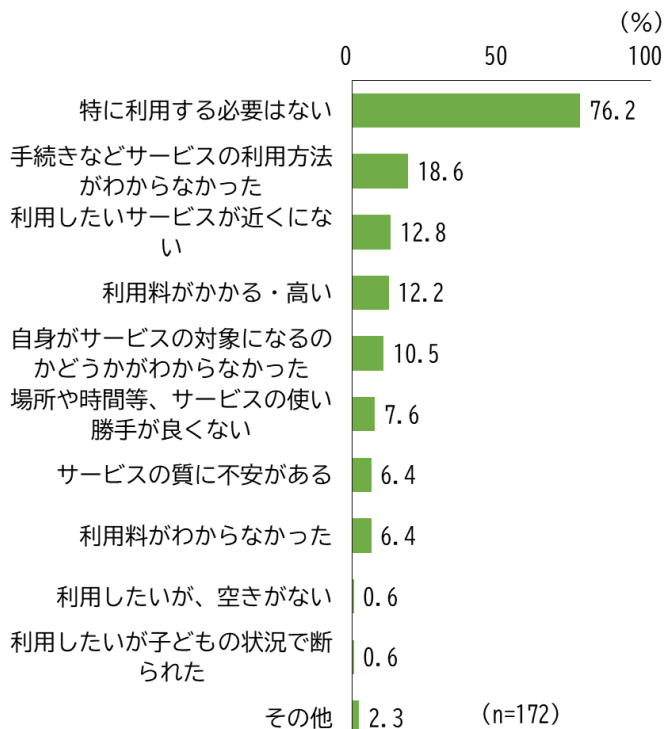


一時保育の利用日数

項目	度数（人）	割合（%）
3日	1	33.3
10日	1	33.3
40日	1	33.3
合計	3	100.0

図表 38 <回答対象者：私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業のない者> 利用していない理由（複数回答） [問 18-1]

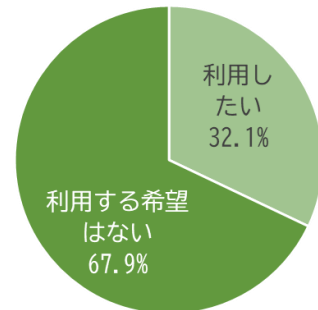
	度数（人）	割合（%）
特に利用する必要はない	131	76.2
手続きなどサービスの利用方法がわからなかった	32	18.6
利用したいサービスが近くにない	22	12.8
利用料がかかる・高い	21	12.2
自身がサービスの対象になるのかがわからなかった	18	10.5
場所や時間等、サービスの使い勝手が良くない	13	7.6
サービスの質に不安がある	11	6.4
利用料がわからなかった	11	6.4
利用したいが、空きがない	1	0.6
利用したいが子どもの状況で断られた	1	0.6
その他	4	2.3
回答者数	172	



- ・ 親の通院、不定期の仕事等の理由で不定期に利用したい教育・保育事業の利用意向としては、「利用したい」が32.1%となっている。
- ・ 利用したいと回答した者の利用目的としては、「冠婚葬祭等」（72.1%）と最も高く、次いで「リフレッシュ等」（65.1%）となっている。

図表 39 親の通院、不定期の仕事等での保育園の一時保育や幼稚園の預かり保育等の利用意向 [問 19]

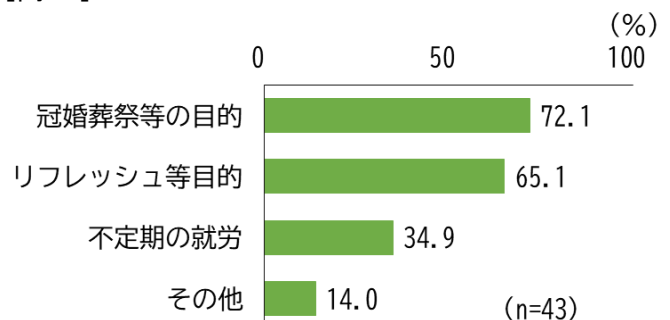
項目	度数(人)	割合(%)
利用したい	59	32.1
利用する希望はない	125	67.9
合計	184	100.0



(n=184)

図表 40 <回答対象者：私用、親の通院、不定期の就労等での保育園の一時保育や幼稚園の預かり保育等の利用意向がある者>利用目的（複数回答） [問 19]

項目	度数(人)	割合(%)
冠婚葬祭等の目的	31	72.1
リフレッシュ等目的	28	65.1
不定期の就労	15	34.9
その他	6	14.0
回答者数	43	



【目的別にみる利用希望日数の内訳】

①冠婚葬祭等目的の利用希望日数

項目	度数(人)	割合(%)
1日	1	3.2
2日	3	9.7
3日	4	12.9
4日	1	3.2
5日	11	35.5
6日	3	9.7
7日	1	3.2
8日	1	3.2
10日以上	6	19.4
合計	31	100.0

②リフレッシュ等目的の利用希望日数

項目	度数(人)	割合(%)
2日	3	10.7
3日	2	7.1
4日	3	10.7
5日	3	10.7
6日	3	10.7
7日	1	3.6
10～19日	11	39.3
20日以上	2	7.1
合計	28	100.0

③不定期の就労目的の利用希望日数

項目	度数(人)	割合(%)
2日	1	6.7
3日	1	6.7
4日	1	6.7
5日	6	40.0
6日	1	6.7
10日	2	13.3
15日	1	6.7
20日	1	6.7
50日	1	6.7
合計	15	100.0

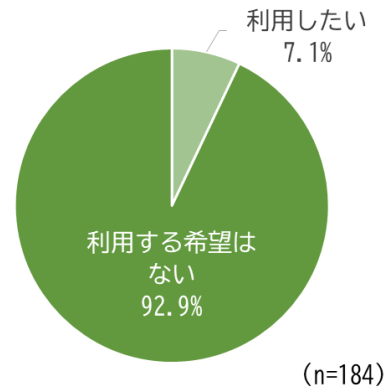
④その他の目的の利用希望日数

項目	度数(人)	割合(%)
5日	1	16.7
10日	2	33.3
12日	1	16.7
20日	1	16.7
85日	1	16.7
合計	6	100.0

- ・ 保護者の用事により、子どもを泊まりがけでみてもらう短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用希望があったとした者は7.1%である。
- ・ 利用したいと回答した者の利用目的としては、「保護者や家族の育児疲れ・不安」（85.7%）と最も高くなっている。

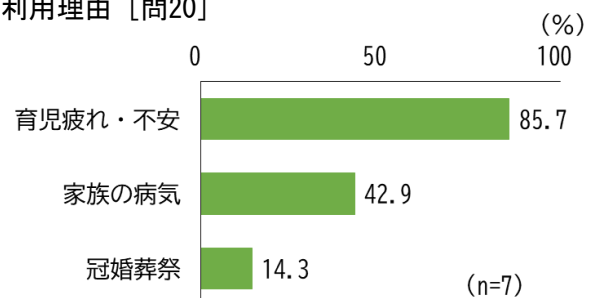
図表 41 保護者の用事による、短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用意向 [問 20]

項目	度数(人)	割合(%)
利用したい	13	7.1
利用する希望はない	171	92.9
合計	184	100.0



図表 42 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用理由 [問20]

	度数(人)	割合(%)
育児疲れ・不安	6	85.7
家族の病気	3	42.9
冠婚葬祭	1	14.3
回答者数	7	



図表 43 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の理由別希望泊数 [問 20]

①育児疲れ・不安

項目	度数(人)	割合(%)
1泊	4	66.7
2泊	1	16.7
14泊	1	16.7
合計	6	100.0

②家族の病気

項目	度数(人)	割合(%)
5泊	2	66.7
14泊	1	33.3
合計	3	100.0

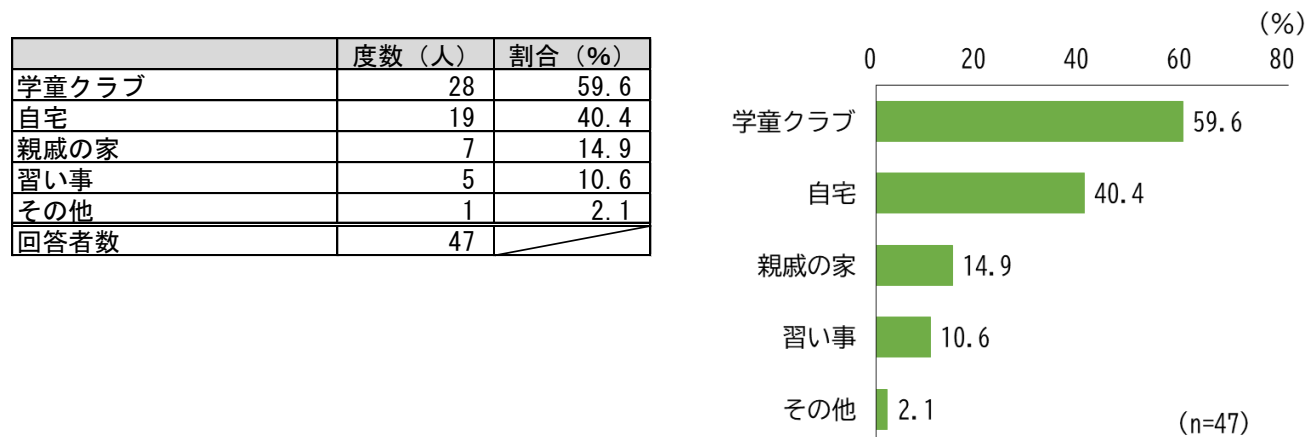
③冠婚葬祭

項目	度数(人)	割合(%)
2泊	1	100.0
合計	1	100.0

(8) 子どもの放課後の過ごし方（回答対象者：子どもが5歳以上）

- ・ 小学校低学年での放課後の過ごし方としては、「学童クラブ」（59.6%）が最も高くなっており、次いで「自宅」（40.4%）となっている。
- ・ 学童クラブで過ごさせたい週あたりの日数は、「5日」（82.1%）が最も高くなっている。自宅も同様に「5日」（78.9%）が最も高くなっている。
- ・ 学童クラブの利用希望時間は、下校時以降、17時から19時までとなっている。

図表 44 小学校低学年（1～3年生）での希望する放課後の過ごし方（複数回答）、利用日数〔問 21〕



【就学児童時の放課後の過ごさせたい場所別にみる日数】

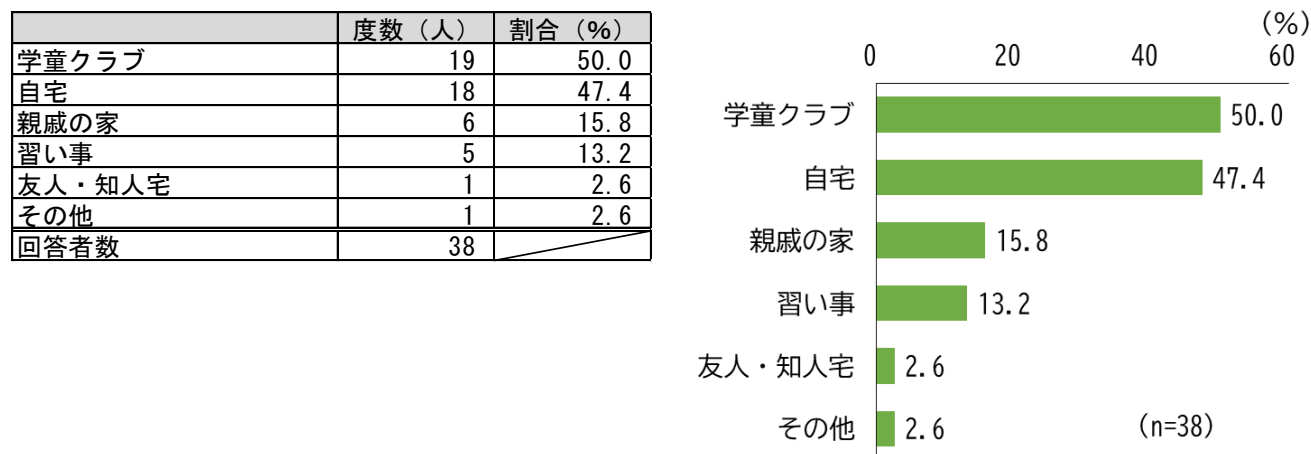
	自宅		親戚の家		友人・知人宅		学童クラブ		習い事		その他	
	人数	割合（%）	人数	割合（%）	人数	割合（%）	人数	割合（%）	人数	割合（%）	人数	割合（%）
1日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	20.0	0	0.0
2日	0	0.0	1	14.3	0	0.0	3	10.7	4	80.0	1	100.0
3日	3	15.8	2	28.6	0	0.0	2	7.1	0	0.0	0	0.0
4日	1	5.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5日	15	78.9	4	57.1	0	0.0	23	82.1	0	0.0	0	0.0
合計	19	100.0	7	100.0	0	0.0	28	100.0	5	100.0	1	100.0
平均日数	4.6		4.0		#DIV/0!		4.5		1.8		2.0	

放課後児童クラブの利用希望時間（下校時から）

項目	度数（人）	割合（%）
17時	8	38.1
18時	8	38.1
19時	5	23.8
合計	21	100.0

- ・ 小学校高学年での放課後の過ごさせ方としては、「学童クラブ」(50.0%)が最も高くなっており、次いで「自宅」(47.4%)となっている。
- ・ 学童クラブで過ごさせたい週あたりの日数は、「5日」(84.2%)が最も高くなっている。自宅も同様に「5日」(88.9%)が最も高くなっている。
- ・ 学童クラブの利用希望時間は、下校時以降、15時から19時までとなっている。

図表 45 小学校高学年（4～6年生）での希望する放課後の過ごし方（複数回答）、利用日数 [問 21]



【小学校高学年時の放課後の過ごさせたい場所別にみる日数】

	自宅		親戚の家		友人・知人宅		学童クラブ		習い事		その他	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
1日	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	1	20.0	0	0.0
2日	0	0.0	2	33.3	0	0.0	1	5.3	2	40.0	1	100.0
3日	2	11.1	1	16.7	0	0.0	1	5.3	2	40.0	0	0.0
4日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.3	0	0.0	0	0.0
5日	16	88.9	3	50.0	0	0.0	16	84.2	0	0.0	0	0.0
合計	18	100.0	6	100.0	1	100.0	19	100.0	5	100.0	1	100.0
平均日数	4.8		3.7		1.0		4.7		2.2		2.0	

⑤放課後児童クラブの利用希望時間（下校時から）

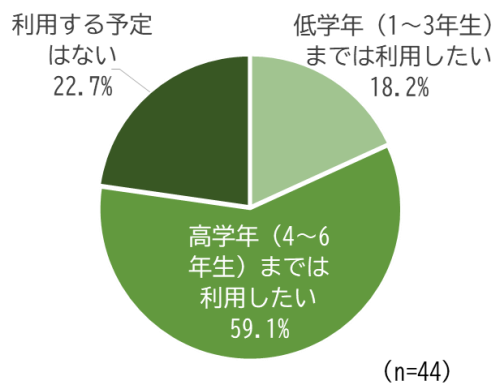
項目	度数 (人)	割合 (%)
15時	1	5.6
17時	3	16.7
18時	8	44.4
19時	6	33.3
合計	18	100.0

- ・ 学童クラブの夏休み・冬休み等の長期休暇中の利用希望者は低学年の間は 18.2%、高学年では 59.1%と、高学年までの利用意向が高くなっている。合計すると、利用する意向がある割合は 77.3%となっている。

図表 43 長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望と利用したい時間帯 [問 22]

(3) 長期休暇期間中（夏休み・冬休み等）の利用希望

項目	度数(人)	割合(%)
低学年（1～3年生）までは利用したい	8	18.2
高学年（4～6年生）までは利用したい	26	59.1
利用する予定はない	10	22.7
合計	44	100.0



△開始時刻

項目	度数(人)	割合(%)
7時台	6	21.4
8時台	15	53.6
9時台	5	17.9
12時以降	2	7.1
合計	28	100.0

▽終了時刻

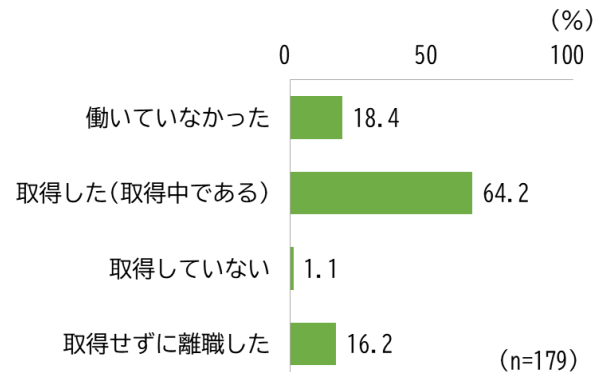
項目	度数(人)	割合(%)
17時台	10	35.7
18時台	11	39.3
19時台	7	25.0
合計	28	100.0

(9) 仕事と子育ての両立（育児休業や短時間勤務制など）

- ・ 母親の育児休業は、64.2%が取得しており、17.3%は取得していないと回答している。
- ・ 父親の育児休業は、11.7%が取得しており、84.8%は取得していないと回答している。
- ・ 取得していない理由としては、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」（%）が最も高く、次いで「仕事が忙しかった」（35.5%）となっている。

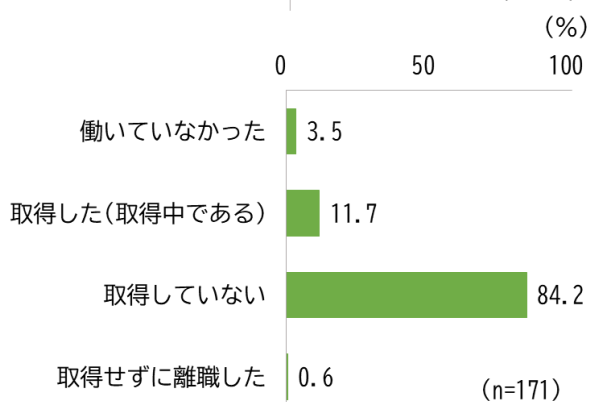
図表 44 母親の育児休業取得の有無 [問23]

項目	度数(人)	割合(%)
働いていなかった	33	18.4
取得した(取得中である)	115	64.2
取得していない	2	1.1
取得せずに離職した	29	16.2
合計	179	100.0



図表 45 父親の育児休業取得の有無 [問23]

項目	度数(人)	割合(%)
働いていなかった	6	3.5
取得した(取得中である)	20	11.7
取得していない	144	84.2
取得せずに離職した	1	0.6
合計	171	100.0

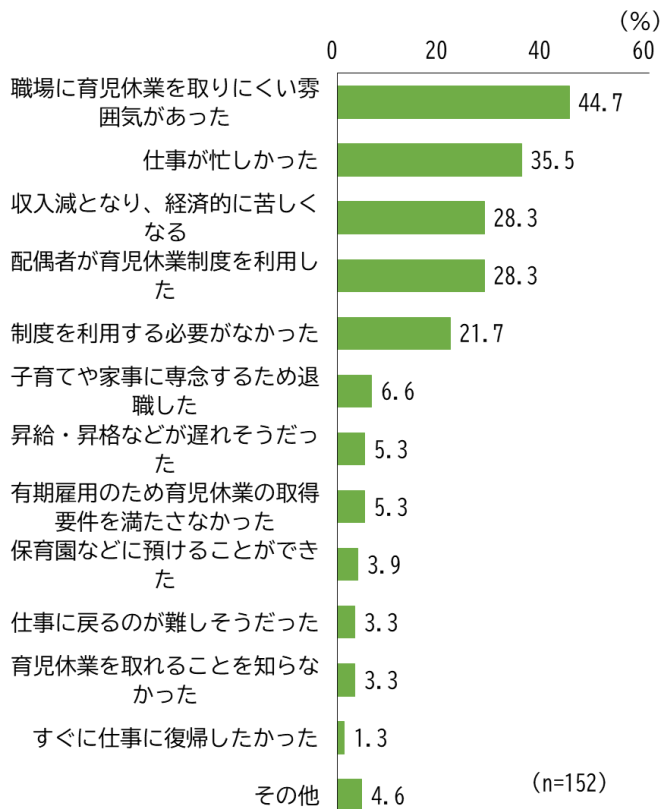


問 24 へ

図表 46 <回答対象者：育児休業を取得していない者>

育児休業を取得していない理由（複数回答） [問 23-1]

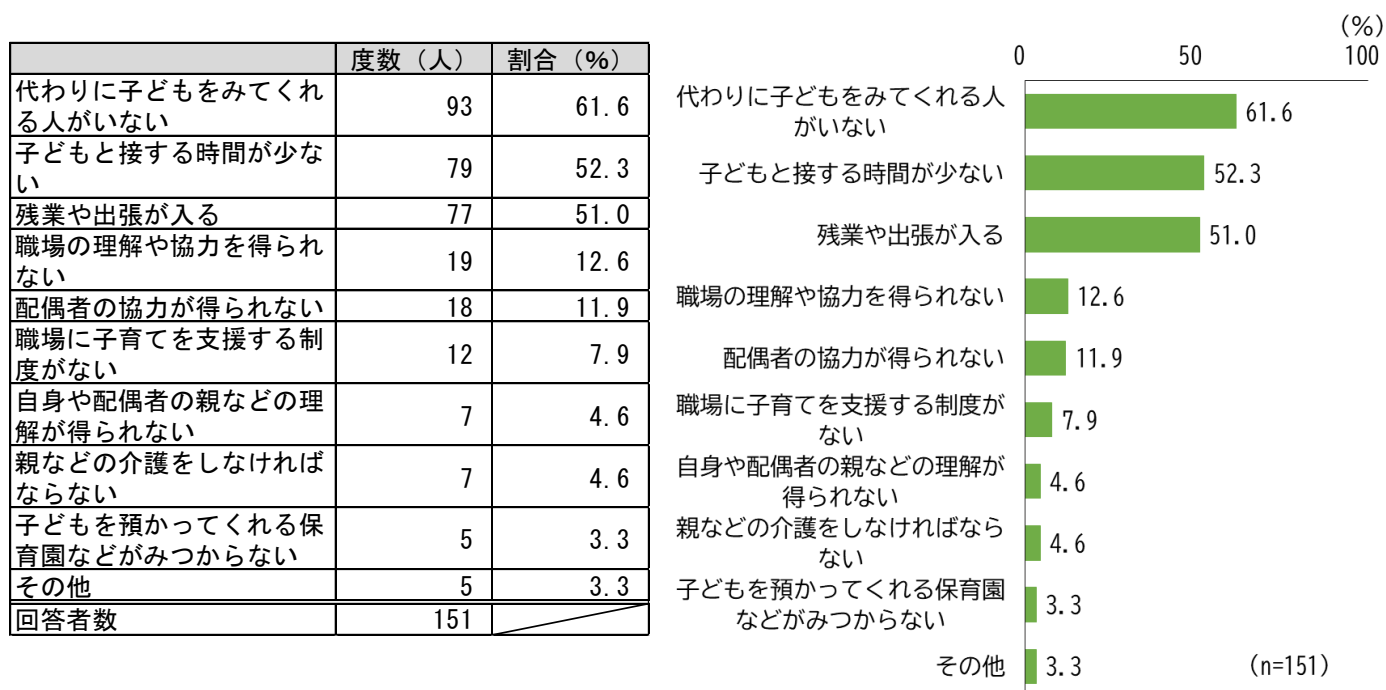
	度数(人)	割合(%)
職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった	68	44.7
仕事が忙しかった	54	35.5
収入減となり、経済的に苦しくなる	43	28.3
配偶者が育児休業制度を利用した	43	28.3
制度を利用する必要がなかった	33	21.7
子育てや家事に専念するため退職した	10	6.6
昇給・昇格などが遅れそうだった	8	5.3
有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった	8	5.3
保育園などに預けることができた	6	3.9
仕事に戻るのが難しそうだった	5	3.3
育児休業を取れることを知らなかった	5	3.3
すぐに仕事に復帰したかった	2	1.3
その他	7	4.6
回答者数	152	



- ・ 出産時に働いていなかった、または育休を取得した者にとって、仕事と子育てを両立させる上で大変だと思うことは、「代わりに子どもをみてくれる人がいない」（61.6%）が最も高く、次いで「子どもと接する時間が少ない」（52.3%）、「残業や出張が入る」（51.0%）となっている。

図表 47 <回答対象者：出産時に働いていなかった者、育休を取得した（している）者>

仕事と子育てを両立させる上で大変だと思うこと（複数回答）[問24]

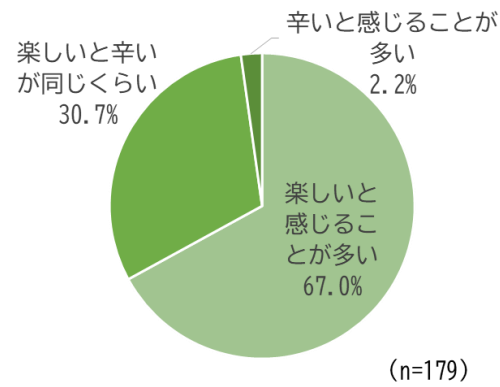


(10) 子育てに対する意識

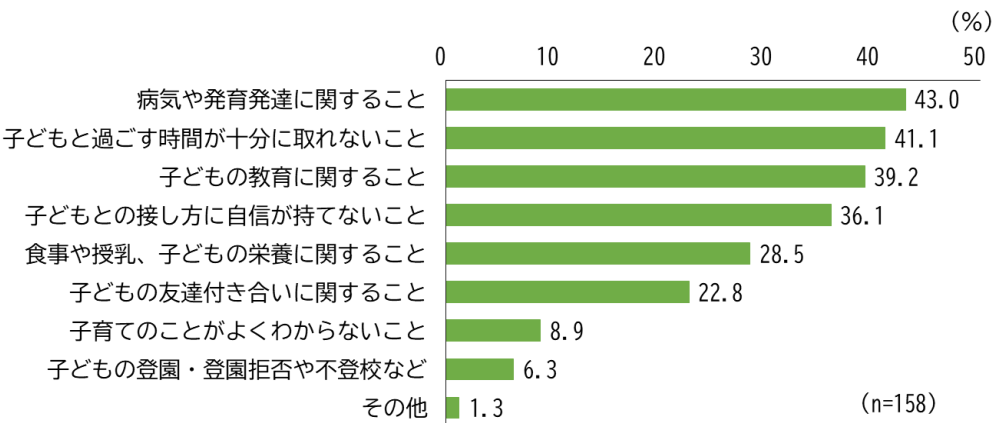
- ・ 子育てをどのように感じるかについて、「楽しいと感じることが多い」(67.0%)が最も高い。一方で、「辛いと感じることが多い」は2.2%となっている。
- ・ 子育てにおいて、子どもについての悩み、気になることとしては、「病気や発育発達に関すること」(43.0%)と最も高く、次いで「子どもと過ごす時間が十分に取れないこと」(41.1%)、「子どもの教育に関すること」(39.2%)となっている。

図表 48 子育てをどのように感じているか [問25]

項目	度数(人)	割合(%)
楽しいと感じることが多い	120	67.0
楽しいと辛いと同じくらい	55	30.7
辛いと感じることが多い	4	2.2
合計	179	100.0



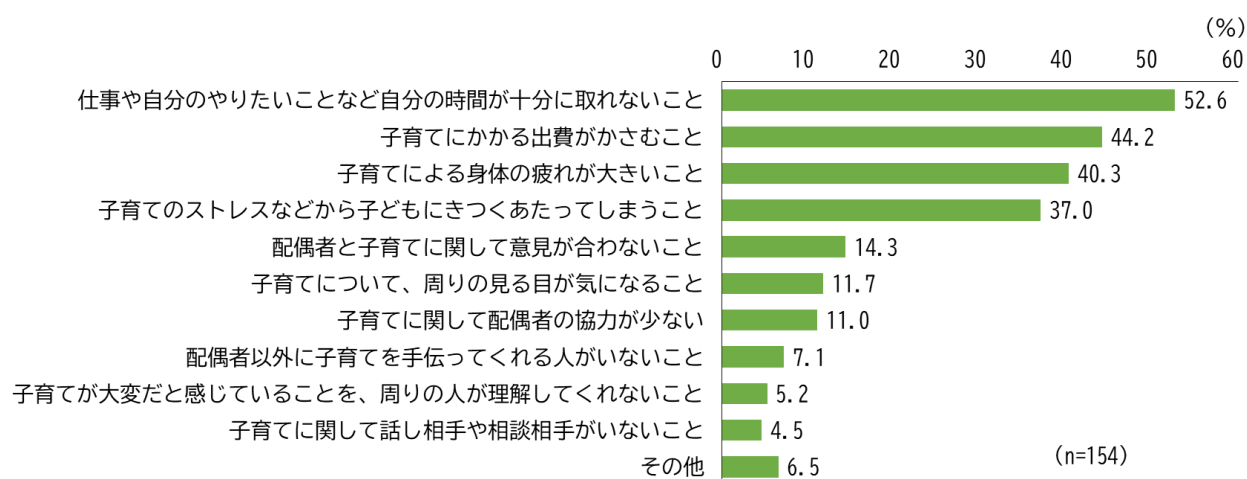
図表 49 子育てにおいて、子どもについて日常悩んでいること、気になること(複数回答) [問26]



	度数(人)	割合(%)
病気や発育発達に関すること	68	43.0
子どもと過ごす時間が十分に取れないこと	65	41.1
子どもの教育に関すること	62	39.2
子どもとの接し方に自信が持てないこと	57	36.1
食事や授乳、子どもの栄養に関すること	45	28.5
子どもとの友達付き合いに関すること	36	22.8
子育てのことがよくわからないこと	14	8.9
子どもの登園・登園拒否や不登校など	10	6.3
その他	2	1.3
回答者数	158	

- ・ 保護者自身についての悩み、気になることとしては、「自分の時間が十分に取れないこと」（52.6%）が最も高く、次いで「出費がかさむこと」（44.2%）、「身体の疲れが大きいこと」（40.3%）となっている。

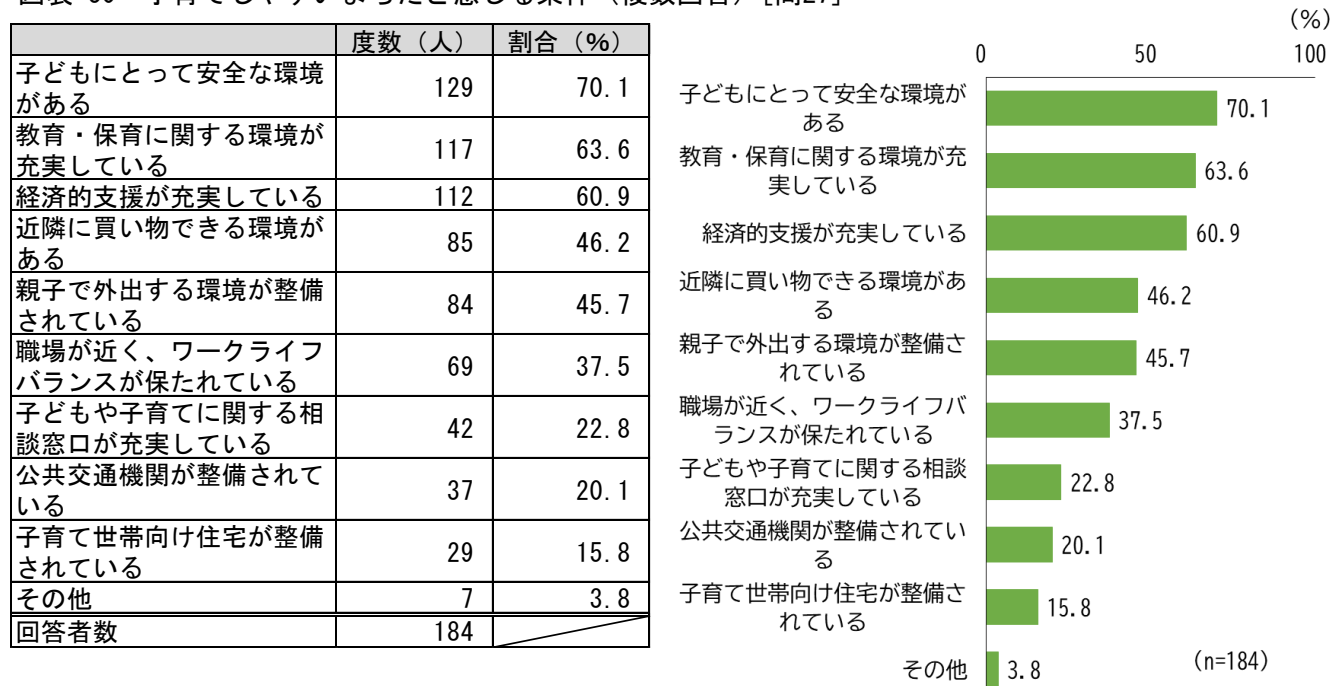
図表 49 子育てにおいて、保護者自身が日常悩んでいること、気になること（複数回答）[問26]



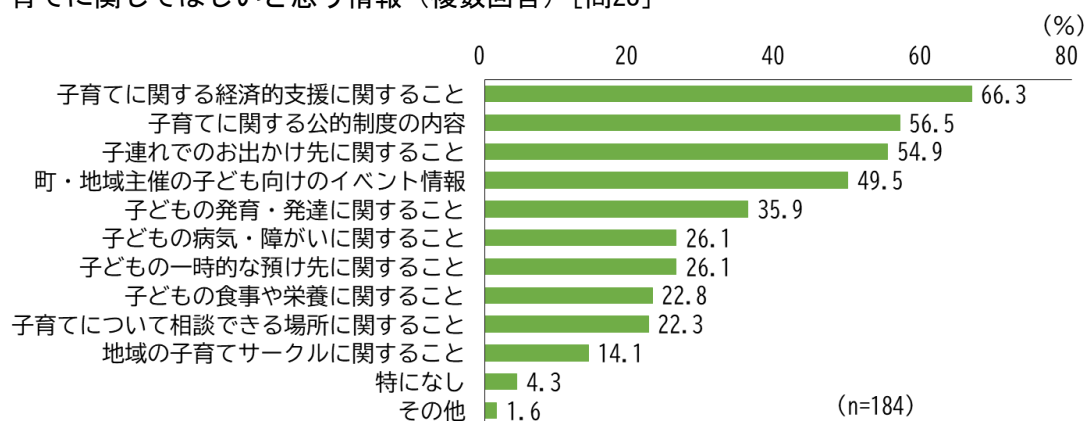
	度数（人）	割合（％）
仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分に取れないこと	81	52.6
子育てにかかる出費がかさむこと	68	44.2
子育てによる身体の疲れが大きいこと	62	40.3
子育てのストレスなどから子どもにきつくあたってしまうこと	57	37.0
配偶者と子育てに関して意見が合わないこと	22	14.3
子育てについて、周りの見る目が気になること	18	11.7
子育てに関して配偶者の協力が少ない	17	11.0
配偶者以外に子育てを手伝ってくれる人がいないこと	11	7.1
子育てが大変だと感じていることを、周りの人が理解してくれないこと	8	5.2
子育てに関して話し相手や相談相手がいないこと	7	4.5
その他	10	6.5
回答者数	154	

- ・子育てをしやすいまちだと感じる条件は、「子どもにとって安全な環境がある」（70.1%）が最も高く、次いで「教育・保育に関する環境が充実している」（63.6%）、「経済的支援が充実している」（60.9%）となっている。
- ・子育てについてほしいと思う情報は、「経済的支援に関すること」（66.3%）、「公的制度の内容」（56.5%）といった公的支援に関する事項が高くなっている。

図表 50 子育てしやすいまちだと感じる条件（複数回答）[問27]



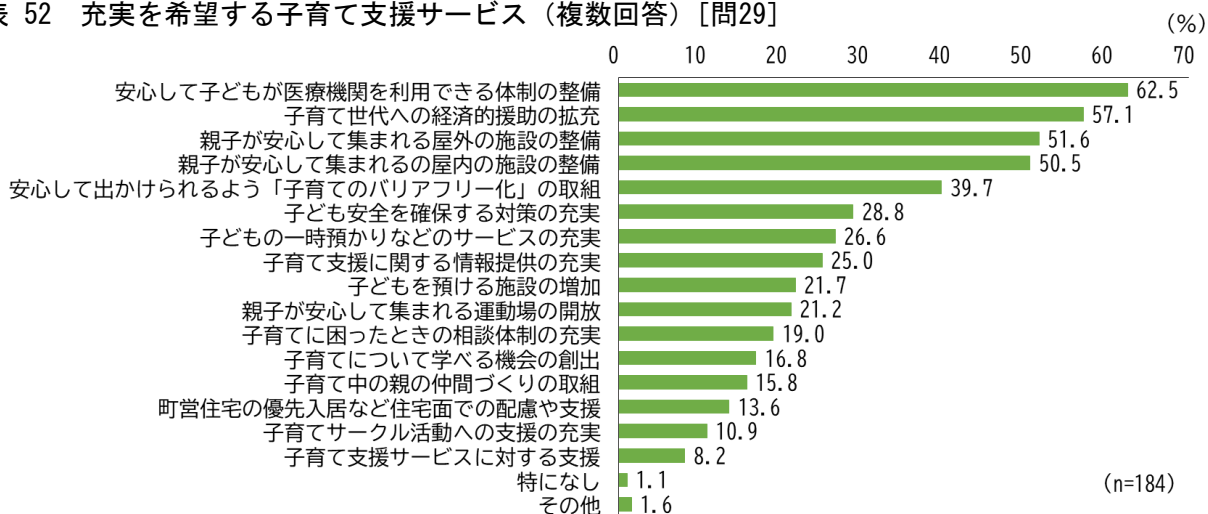
図表 51 子育てに関してほしいと思う情報（複数回答）[問28]



	度数（人）	割合（%）
子育てに関する経済的支援に関すること	122	66.3
子育てに関する公的制度の内容	104	56.5
子連れでのお出かけ先に関すること	101	54.9
町・地域主催の子ども向けのイベント情報	91	49.5
子どもの発育・発達に関すること	66	35.9
子どもの病気・障がいに関すること	48	26.1
子どもの一時的な預け先に関すること	48	26.1
子どもの食事や栄養に関すること	42	22.8
子育てについて相談できる場所に関すること	41	22.3
地域の子育てサークルに関すること	26	14.1
特になし	8	4.3
その他	3	1.6
回答者数	184	

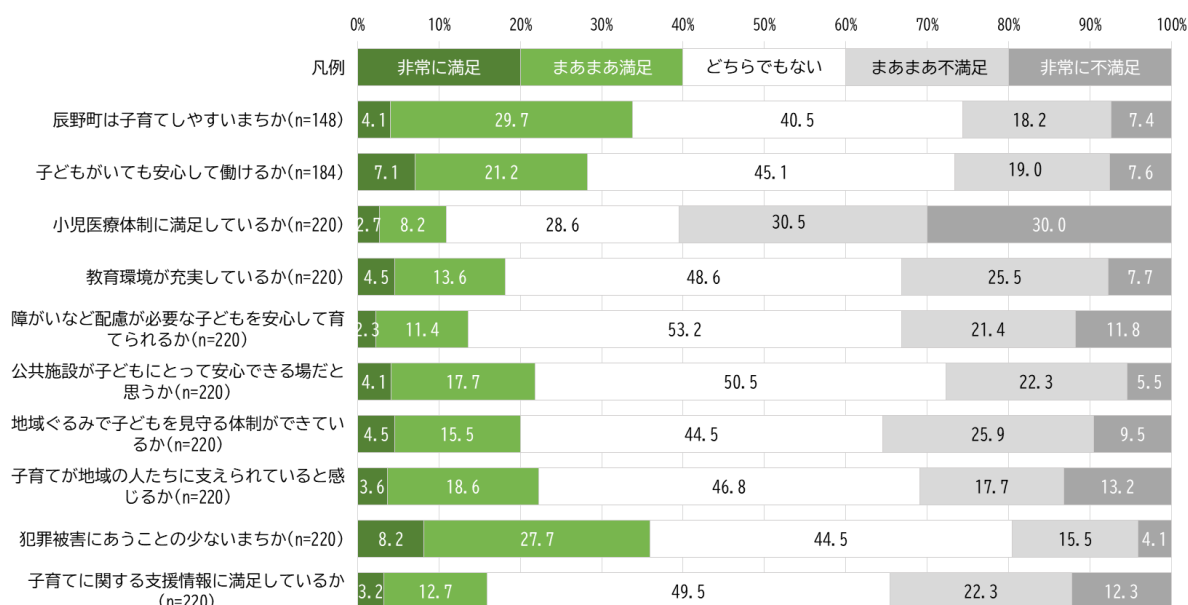
- ・子育て支援サービスで充実を希望するのは、「医療機関を利用できる体制の整備」（62.5%）が最も高く、次いで「経済的援助の拡充」（57.1%）となっている。
- ・辰野町の子育てに関する満足度としては、「子育てしやすい」「犯罪被害にあうことが少ない」の満足度が高い一方で、「医療体制」の満足度が低い傾向がみられる。

図表 52 充実を希望する子育て支援サービス（複数回答）[問29]



	度数 (人)	割合 (%)
子育てに関する経済的支援に関すること	122	66.3
子育てに関する公的制度の内容	104	56.5
子連れでのお出かけ先に関すること	101	54.9
町・地域主催の子ども向けのイベント情報	91	49.5
子どもの発育・発達に関すること	66	35.9
子どもの病気・障がいに関すること	48	26.1
子どもの一時的な預け先に関すること	48	26.1
子どもの食事や栄養に関すること	42	22.8
子育てについて相談できる場所に関すること	41	22.3
地域の子育てサークルに関すること	26	14.1
特になし	8	4.3
その他	3	1.6
回答者数	184	

図表 53 辰野町の子育ての環境や支援への満足度 [問30]



3-2 就学児童保護者の調査結果

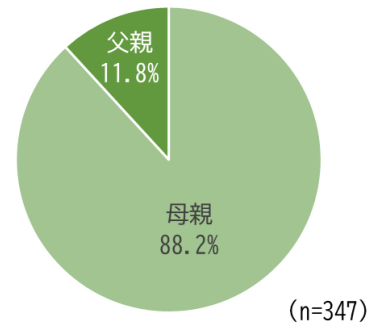
(1) 回答者や子どもの属性

1) 回答者の属性

- ・ 回答者は「母親」が 88.2%と多くを占めている。
- ・ 配偶者がいると答えた割合は 92.5%と多くを占めている。
- ・ 子育てを主に行っている者は「父母ともに」（68.0%）が最も高く、次いで「主に母親」（31.4%）となっている。

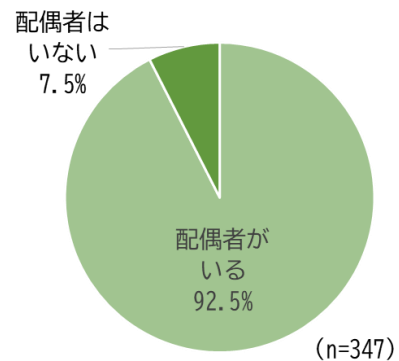
図表 58 調査票の回答者 [問 4]

	度数(人)	割合(%)
母親	306	88.2
父親	41	11.8
合計	347	100.0



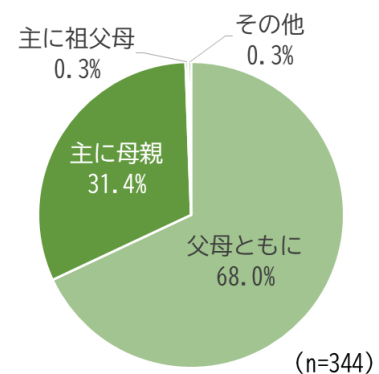
図表 59 配偶者の有無 [問 5]

	度数(人)	割合(%)
配偶者がいる	321	92.5
配偶者がいない	26	7.5
合計	347	100.0



図表 60 子育てを主に行っている者 [問 6]

	度数(人)	割合(%)
父母ともに	234	68.0
主に母親	108	31.4
主に祖父母	1	0.3
その他	1	0.3
合計	344	100.0

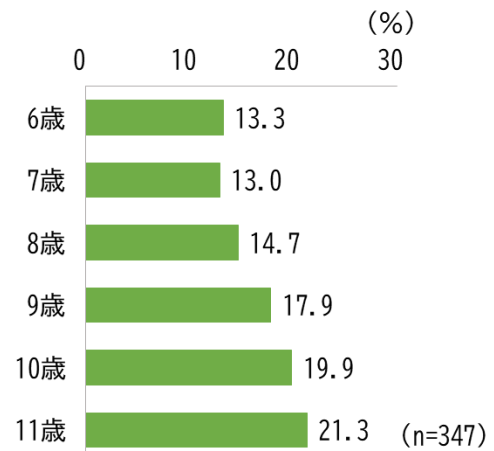


2) 子どもの属性

- ・ 回答者の子どもの年齢は、11歳（21.3%）が最も高いが、満遍なく回答されている。
- ・ 兄弟の数は2人（46.1%）が最も高く、次いで「3人」（31.1%）となっている。
- ・ 居住地域は、「宮木」（23.6%）と最も高く、次いで「平出」（13.0%）となっている。

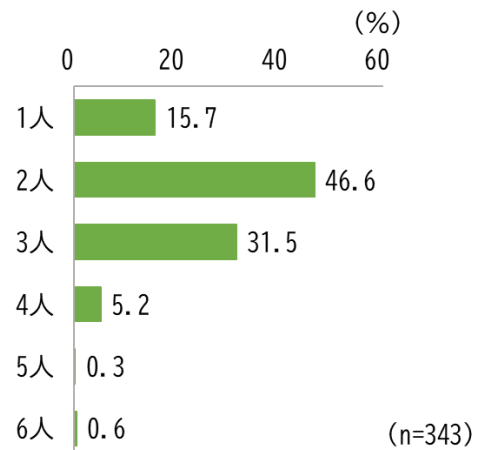
図表 56 調査対象の子どもの年齢 [問 2]

	度数(人)	割合(%)
6歳	46	13.3
7歳	45	13.0
8歳	51	14.7
9歳	62	17.9
10歳	69	19.9
11歳	74	21.3
合計	347	100.0



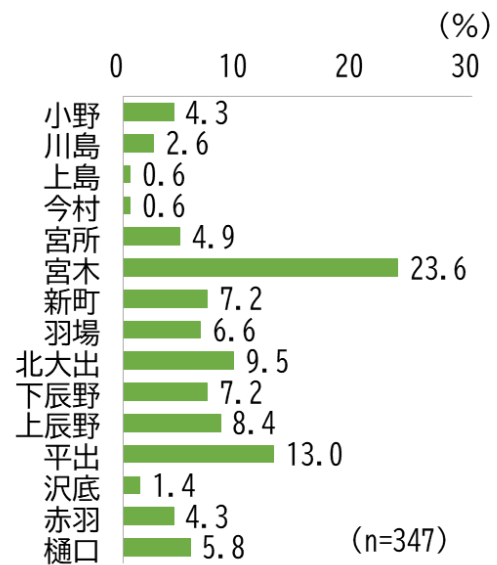
図表 57 調査対象の子どもの兄弟の数 [問 3]

項目	度数(人)	割合(%)
1人	54	15.7
2人	160	46.6
3人	108	31.5
4人	18	5.2
5人	1	0.3
6人	2	0.6
合計	343	100.0



図表 55 居住地域 [問 1]

	度数(人)	割合(%)
小野	15	4.3
川島	9	2.6
上島	2	0.6
今村	2	0.6
宮所	17	4.9
宮木	82	23.6
新町	25	7.2
羽場	23	6.6
北大出	33	9.5
下辰野	25	7.2
上辰野	29	8.4
平出	45	13.0
沢底	5	1.4
赤羽	15	4.3
樋口	20	5.8
合計	347	100.0

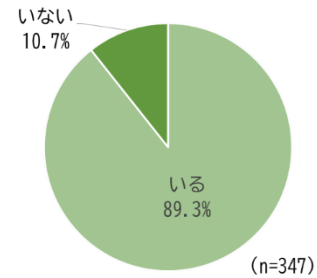


(2) 育ちをめぐる環境

- ・ 日頃お子さんをみてもらえる者は、89.3%があると回答しており、そのうち、「親族（用事等の際）」（64.8%）が最も高く、次いで「親族（日常的）」（44.5%）となっている。みてもらえる人がいないと回答したのは10.7%となっている。
- ・ お子さんをみてもらっていることに対しては、親族に対し、「安心してみてもらえる」（45.5%）が最も高い一方で、次いで「時間的制約や精神的な負担が大きく心配」（34.9%）「身体的負担が大きく心配」（32.9%）となっている。

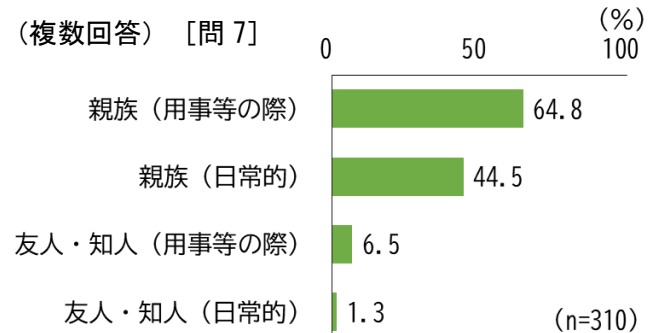
図表 61-1 日頃、お子さんをみてもらえる者の有無 [問 7]

	度数(人)	割合(%)
いる	310	89.3
いない	37	10.7
合計	347	100.0

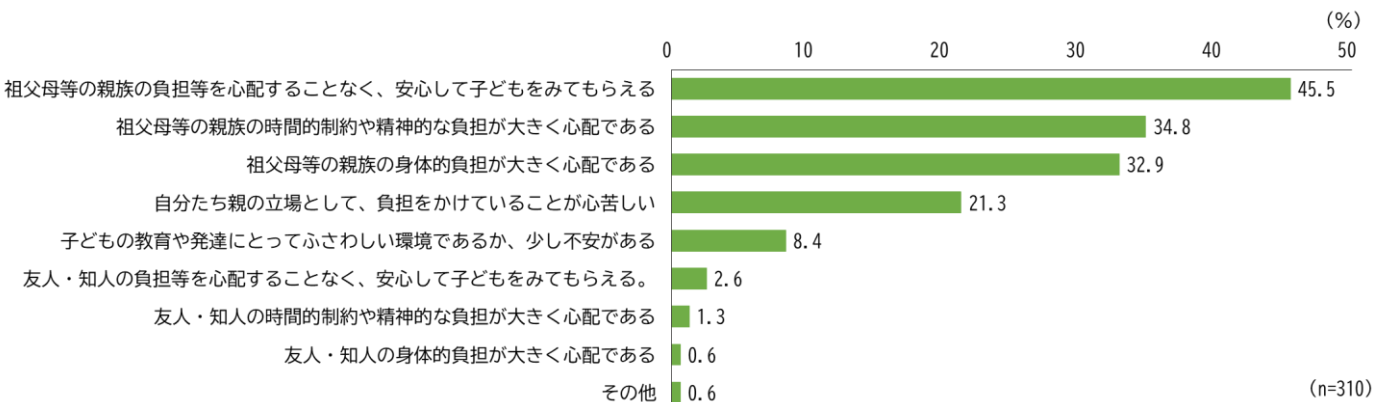


図表 61-2 日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人（複数回答） [問 7]

	度数(人)	割合(%)
親族（用事等の際）	201	64.8
親族（日常的）	138	44.5
友人・知人（用事等の際）	20	6.5
友人・知人（日常的）	4	1.3
回答者数	310	



図表 62 お子さんをみてもらっていることに対する気持ち（複数回答） [問 7-1]

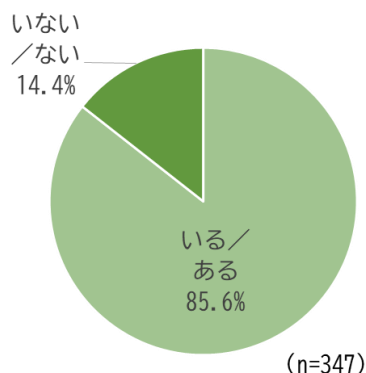


	度数(人)	割合(%)
祖父母等の親族の負担等を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる	141	45.5
祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である	108	34.8
祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である	102	32.9
自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい	66	21.3
子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある	26	8.4
友人・知人の負担等を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる。	8	2.6
友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である	4	1.3
友人・知人の身体的負担が大きく心配である	2	0.6
その他	2	0.6
回答者数	310	

- ・子育てのことで相談できる人や場所については、「いる／ある」（85.6%）と多くを占めている。一方で、「いない／ない」という回答も14.4%みられる。
- ・子育てに関して、気軽に相談する先としては「配偶者」（80.5%）が最も高く、次いで「祖父母等の親族」（67.7%）、「友人や知人」（62.3%）となっている。
- ・気軽に相談する先がない人について、48.0%の回答者が相談先が欲しいと回答している一方で、52.0%は必要ないとしている。希望する相談先としては、教育・勉強等について相談できるところ、同じ悩みを抱えた人や経験者、等の意見があがっている。

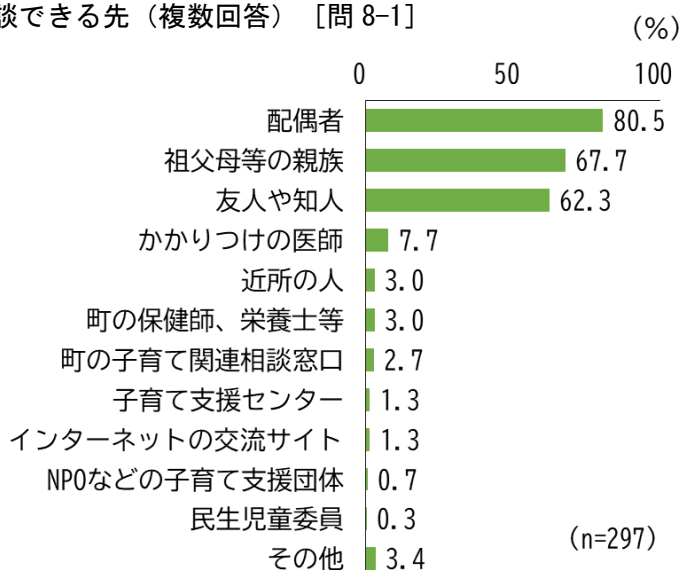
図表 63 子育て（教育を含む）のことで気軽に相談できる人・場所の有無 [問 8]

	度数(人)	割合(%)
いる／ある	297	85.6
いない／ない	50	14.4
合計	347	100.0



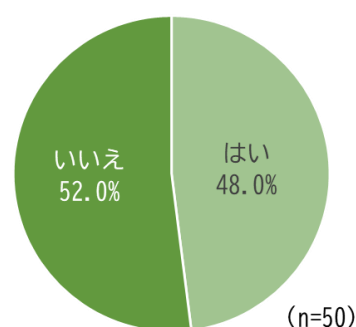
図表 64 <回答対象者：子育て（教育を含む）のことで相談できる者・場所がいる・ある者>
子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先（複数回答） [問 8-1]

	度数(人)	割合(%)
配偶者	239	80.5
祖父母等の親族	201	67.7
友人や知人	185	62.3
かかりつけの医師	23	7.7
近所の人	9	3.0
町の保健師、栄養士等	9	3.0
町の子育て関連相談窓口	8	2.7
子育て支援センター	4	1.3
インターネットの交流サイト	4	1.3
NPOなどの子育て支援団体	2	0.7
民生児童委員	1	0.3
その他	10	3.4
回答者数	297	



図表 65 <回答対象者：子育て（教育を含む）のことで相談できる者・場所がない・ない者>
子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先の需要 [問 8-2]

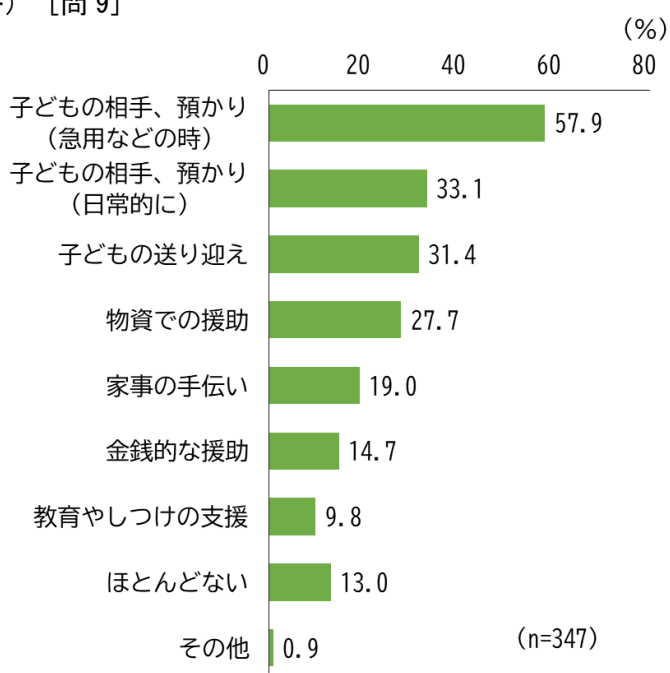
	度数(人)	割合(%)
はい	24	48.0
いいえ	26	52.0
合計	50	100.0



- ・ 回答者の親から受けている子育ての支援としては、「子どもの相手、預かり（急用などの時）」（57.9%）が最も高く、次いで「子どもの相手、預かり（日常的に）」（33.1%）となっている。
- ・ 子育てに最も影響すると思われる環境としては、「家庭」（79.0%）が最も高く、次いで「小学校」（18.7%）となっている。

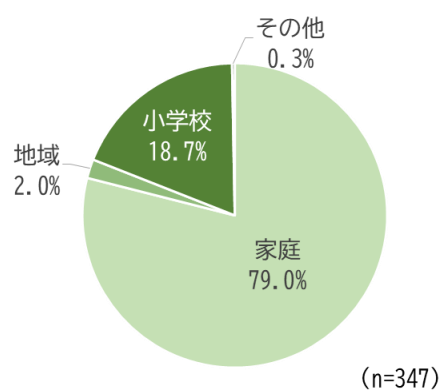
図表 66 親から受けている子育ての支援（複数回答） [問 9]

	度数（人）	割合（%）
子どもの相手、預かり（急用などの時）	201	57.9
子どもの相手、預かり（日常的に）	115	33.1
子どもの送り迎え	109	31.4
物資での援助	96	27.7
家事の手伝い	66	19.0
金銭的な援助	51	14.7
教育やしつけの支援	34	9.8
ほとんどない	45	13.0
その他	3	0.9
回答者数	347	



図表 67 子育て（教育を含む）に最も影響すると思われる環境 [問 10]

	度数(人)	割合 (%)
家庭	274	79.0
地域	7	2.0
小学校	65	18.7
その他	1	0.3
合計	347	100.0

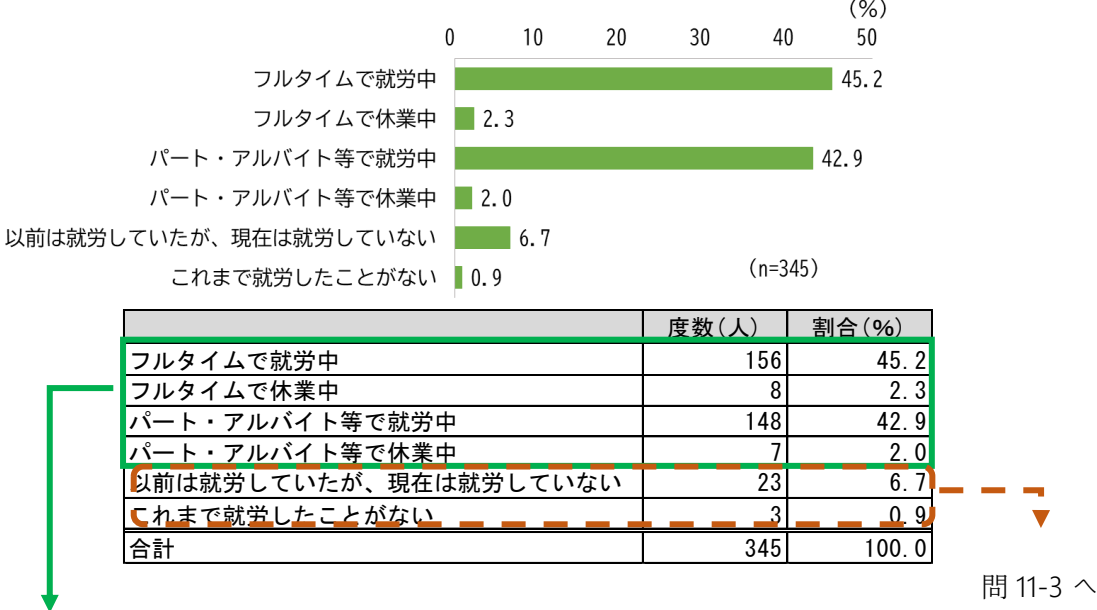


(3) 保護者の就労状況

1) 母親の就労状況

- ・ 就労している母親（休業含む）は 92.4%と多くを占めている。そのうち、フルタイムとフルタイム（パート・アルバイト等）以外の割合をみると、フルタイムは 47.5%、フルタイム以外は 44.9%とフルタイムが多くなっている。
- ・ フルタイム就労している母親の 1 週当たりの就労日数は「5 日」（82.7%）が最も高く、1 日あたりの就労時間は「8 時間」（32.5%）が最も高くなっている。
- ・ パート・アルバイトで働いている母親のフルタイムへの転換希望としては、半数以上の 54.6%がフルタイムへの転換を希望しているが、「実現見込あり」としているのは 13.2%に留まっている。

図表 68 母親の現在の就労状況（自営業、家族従事者を含む） [問 11]



図表 70 <回答対象者：就労している者>現在、就労している母親の就労日数、就労時間 [問 11-1]

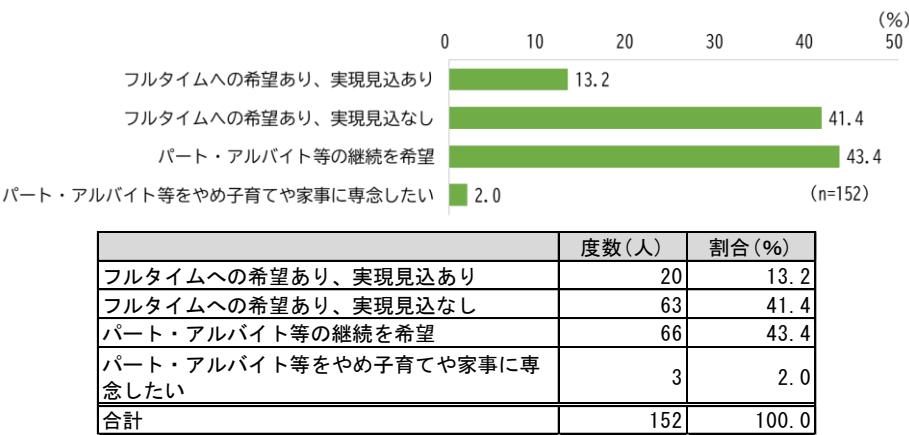
◆週あたり就労日数

	度数(人)	割合(%)
1日	1	0.3
2日	1	0.3
3日	17	5.6
4日	37	12.2
5日	237	78.2
6日	9	3.0
7日	1	0.3
合計	303	100.0

◆1 日あたり就労時間

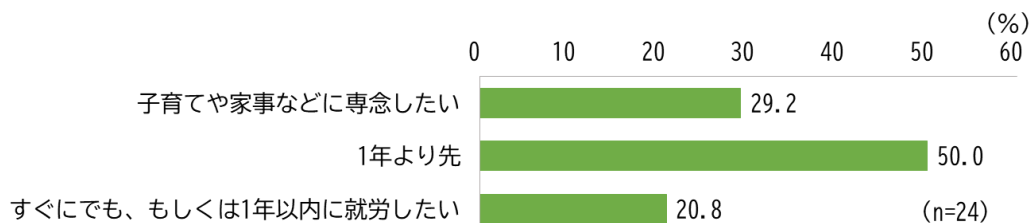
	度数(人)	割合(%)
2時間	1	0.3
3時間	7	2.3
4時間	19	6.2
5時間	39	12.7
6時間	47	15.4
7時間	43	14.1
8時間	107	35.0
9時間	15	4.9
10時間	21	6.9
11時間	5	1.6
12時間以上	2	0.7
合計	306	100.0

図表 72 <回答対象者：フルタイム以外で就労中の母親>フルタイムへの転換希望 [問 11-2]



- ・ 就労していない母親の意向は、「1年より先に就労したい」（50.0%）が最も高くなっている。「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」とする割合は20.8%であり、希望する就労形態は、「パートタイム、アルバイト等」が80.0%と最も高くなっている。

図表 74-1 <回答対象者：以前は就労していたが、現在は就労していない母親>
就労等についての意向 [問 11-3]



	度数(人)	割合 (%)
子育てや家事などに専念したい	7	29.2
1年より先に就労したい	12	50.0
すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい	5	20.8
合計	24	100.0

就労したいタイミングの末子の年齢 [問 11-3]

	度数(人)	割合 (%)
2歳	1	11.1
3歳	3	33.3
6歳	1	11.1
7歳	3	33.3
16歳	1	11.1
合計	9	100.0

図表 19 <回答対象者：すぐにでも、または1年以内に就労したい母親>
希望する就労形態 [問 11-3]

	度数(人)	割合 (%)
フルタイム	1	20.0
パートタイム、アルバイト等	4	80.0
合計	5	100.0

図表 74-4 <回答対象者：すぐにでも、または1年以内に就労したい母親>
希望する就労日数、就労時間 [問 11-3]

◆週あたり希望就労日数

	度数(人)	割合 (%)
3日	3	75.0
5日	1	25.0
合計	4	100.0

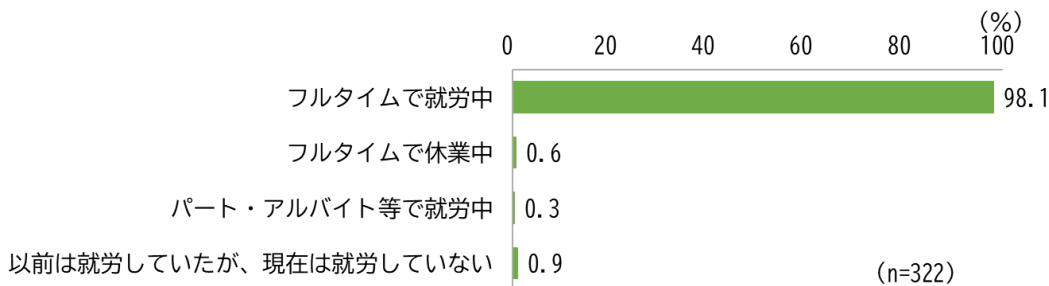
◆1日あたり希望就労時間

	度数(人)	割合 (%)
3時間	1	25.0
4時間	1	25.0
5時間	2	50.0
合計	4	100.0

2) 父親の就労状況

- ・ 父親の就労状況は、「フルタイムで就労中」が98.1%とほとんどを占めている。
- ・ フルタイム就労している父親の1週当たりの就労日数は「5日」（79.5%）が最も高く、1日あたりの就労時間は「8時間」（46.7%）が最も高くなっている。

図表 69 父親の現在の就労状況（自営業、家族従事者を含む） [問 11]



	度数(人)	割合 (%)
フルタイムで就労中	316	98.1
フルタイムで休業中	2	0.6
パート・アルバイト等で就労中	1	0.3
以前は就労していたが、現在は就労していない	3	0.9
合計	322	100.0

図表 71 <回答対象者：就労している者>

現在、就労している父親の就労日数、就労時間 [問 11-1]

◆週あたり就労日数

	度数(人)	割合 (%)
1日	1	0.3
5日	240	79.5
6日	55	18.2
7日	6	2.0
合計	302	100.0

◆1日あたり就労時間

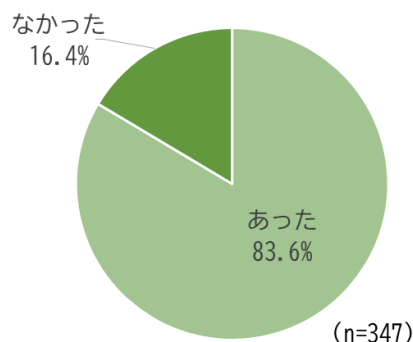
	度数(人)	割合 (%)
7時間	2	0.7
8時間	142	46.7
9時間	36	11.8
10時間	65	21.4
11時間	21	6.9
12時間	23	7.6
13時間	7	2.3
14時間	5	1.6
15時間	1	0.3
20時間	2	0.7
合計	304	100.0

(4) 子どもが病気の際の対応

- ・この1年間で子どもが病気やケガで通園等ができなかったことがある者の割合は83.6%と最も高くなっている。
- ・その際の対処方法としては、「母親が休んだ」(83.1%)が最も高く、次いで「親戚・友人等にみてもらった」(39.0%)、「父親が休んだ」(34.8%)、となっている。
- ・子どもが病気やケガで通園等ができなかったときに、父親または母親が休んだ者は、全員が「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」という意向を持っている。

図表 76 この1年間、病気やケガで子どもが小学校を欠席したことの有無 [問 12]

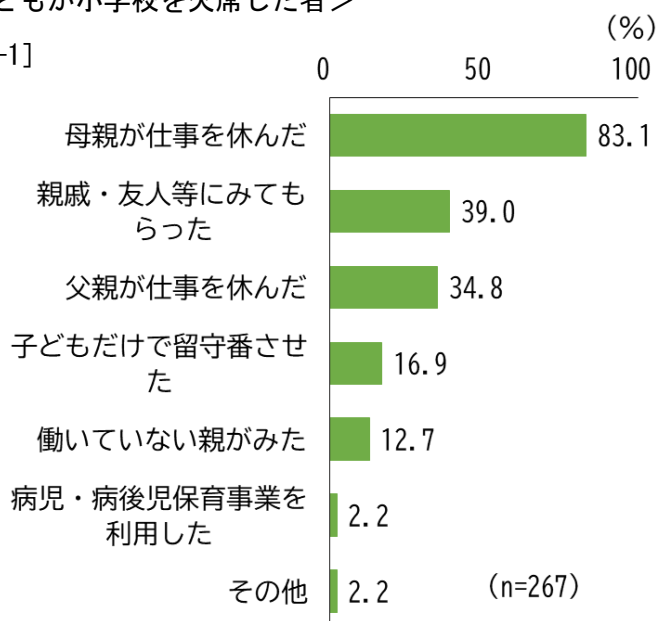
	度数(人)	割合(%)
あった	290	83.6
なかった	57	16.4
合計	347	100.0



図表 77 <回答対象者：この1年に病気やケガで子どもが小学校を欠席した者>

欠席した場合の対処方法(複数回答) [問12-1]

	度数(人)	割合(%)
母親が仕事を休んだ	222	83.1
親戚・友人等にみてもらった	104	39.0
父親が仕事を休んだ	93	34.8
子どもだけで留守番させた	45	16.9
働いていない親がみた	34	12.7
病児・病後児保育事業を利用した	6	2.2
その他	6	2.2
回答者数	267	



図表 78 <回答対象者：この1年に子どもが小学校を欠席し、その際、両親いずれかが対応した者>

病児・病後児のための保育施設等の利用希望 [問 12-2]

	度数(人)	割合(%)
できれば利用したい	80	100.0
合計	80	100.0

【各対処方法別の日数】

①父親が休んだ日数

	度数(人)	割合(%)
1日	40	43.0
2日	17	18.3
3日	25	26.9
4日	2	2.2
5日	6	6.5
10日	1	1.1
15日	1	1.1
20日	1	1.1
合計	93	100.0

②母親が休んだ日数

	度数(人)	割合(%)
1日	34	15.3
2日	32	14.4
3日	33	14.9
4日	12	5.4
5日	39	17.6
6日	7	3.2
7日	8	3.6
8日	5	2.3
10日	32	14.4
12日	1	0.5
15日	6	2.7
20日	12	5.4
100日	1	0.5
合計	222	100.0

③子どもだけで留守番させた日数

	度数(人)	割合(%)
1日	11	24.4
2日	16	35.6
3日	5	11.1
4日	3	6.7
5日	8	17.8
6日	1	2.2
30日	1	2.2
合計	45	100.0

④親族・友人等にみてもらった日数

	度数(人)	割合(%)
1日	27	26.0
2日	29	27.9
3日	17	16.3
4日	5	4.8
5日	19	18.3
6日	2	1.9
10日	4	3.8
20日	1	1.0
合計	104	100.0

⑤働いていない親がみた日数

	度数(人)	割合(%)
1日	3	8.8
2日	5	14.7
3日	4	11.8
4日	1	2.9
5日	6	17.6
7日	2	5.9
8日	1	2.9
10日	6	17.6
15日	3	8.8
20日	3	8.8
合計	34	100.0

⑥病児・病後児保育を利用した日数

	度数(人)	割合(%)
1日	2	33.3
3日	1	16.7
5日	3	50.0
合計	6	100.0

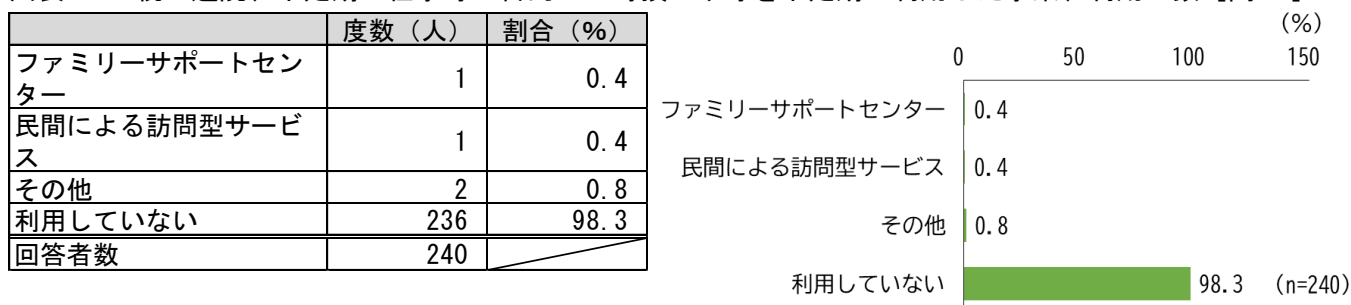
⑦その他の日数

	度数(人)	割合(%)
2日	1	16.7
5日	3	50.0
10日	1	16.7
20日	1	16.7
合計	6	100.0

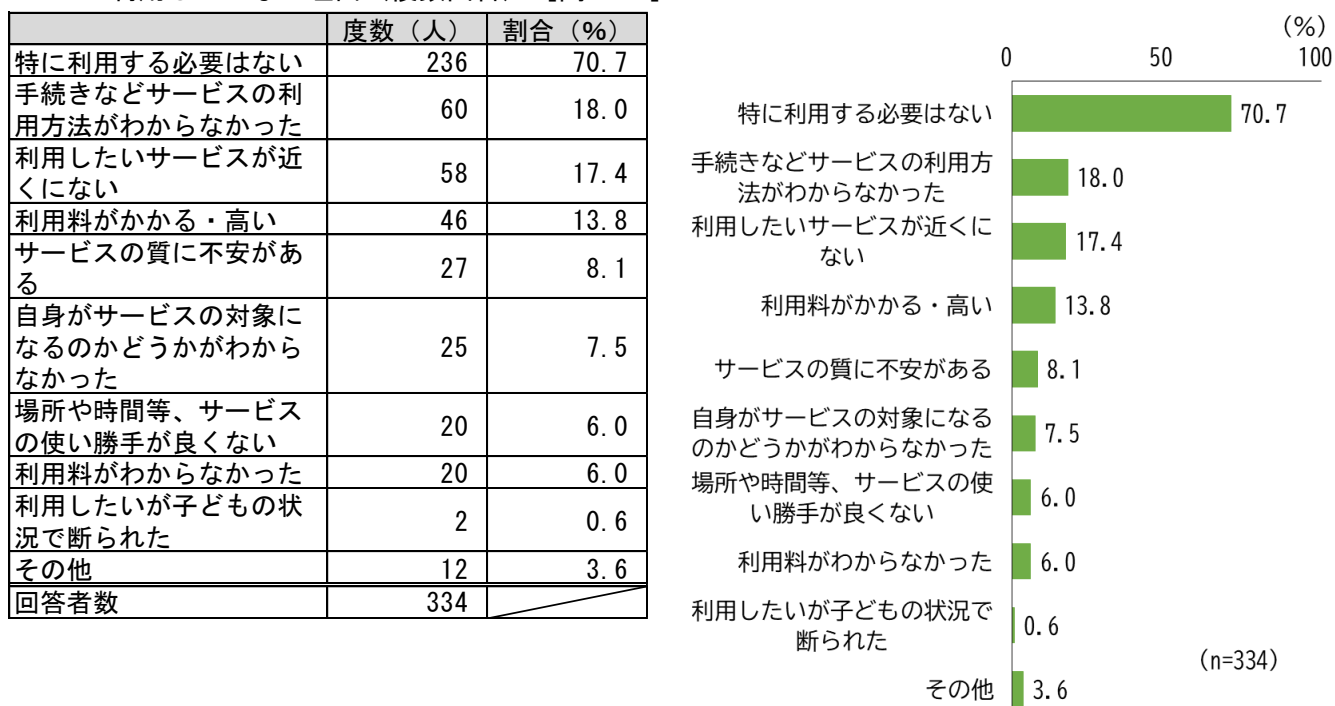
(5) 不定期の教育や宿泊を伴う一時預かり等の利用

- ・ 親の通院、不定期の仕事等の理由で不定期に利用している事業の有無については、98.3%が「ない」としている。利用した者の事業は「ファミリーサポートセンター」「一時保育」「その他」となっている。
- ・ 利用していない理由としては、「特に利用する必要がない」(70.7%)が最も高く、具体的な回答としては、「手続きなどサービスの利用方法がわからなかった」(18.0%)が最も高くなっている。

図表 79 親の通院、不定期の仕事等の目的で一時預かり等を不定期に利用した事業、利用日数 [問 13]



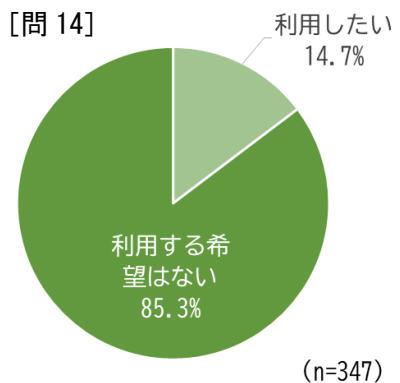
図表 80 <回答対象者：私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業のない者>
利用していない理由（複数回答） [問 13-1]



- ・ 親の通院、不定期の仕事等の理由で不定期に利用したい教育・保育事業の利用意向としては、「利用したい」が32.1%となっている。
- ・ 利用したいと回答した者の利用目的としては、「冠婚葬祭等」（81.1%）と最も高く、次いで「リフレッシュ等」（45.9%）となっている。

図表 81-1 親の通院、不定期の仕事等での一時預かり等の利用意向 [問 14]

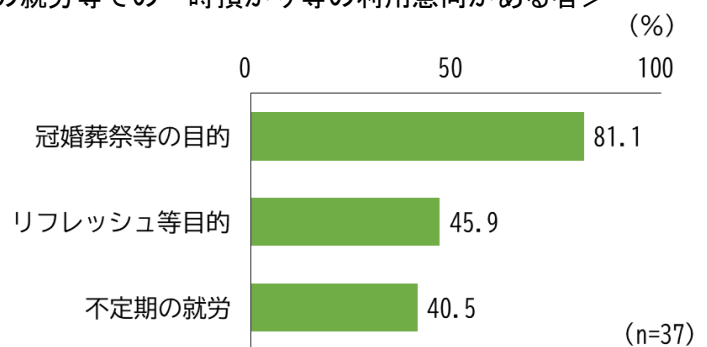
	度数(人)	割合(%)
利用したい	51	14.7
利用する希望はない	296	85.3
合計	347	100.0



図表 81-2 <回答対象者：私用、親の通院、不定期の就労等での一時預かり等の利用意向がある者>

利用目的（複数回答）[問 14]

	度数(人)	割合(%)
冠婚葬祭等の目的	30	81.1
リフレッシュ等目的	17	45.9
不定期の就労	15	40.5
回答者数	37	



【目的別にみる利用希望日数の内訳】

①冠婚葬祭等目的の利用希望日数

	度数(人)	割合(%)
1日	2	6.7
2日	4	13.3
3日	8	26.7
5日	8	26.7
6日	2	6.7
7日	1	3.3
8日	1	3.3
10日	2	6.7
12日	1	3.3
20日	1	3.3
合計	30	100.0

②リフレッシュ等目的の利用希望日数

	度数(人)	割合(%)
2日	3	17.6
3日	3	17.6
4日	1	5.9
5日	1	5.9
6日	1	5.9
7日	1	5.9
10日	4	23.5
12日	2	11.8
24日	1	5.9
合計	17	100.0

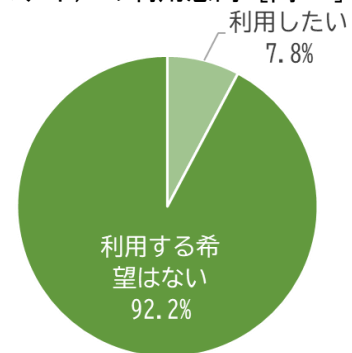
③不定期の就労目的の利用希望日数

	度数(人)	割合(%)
2日	4	26.7
3日	2	13.3
5日	6	40.0
6日	1	6.7
7日	1	6.7
24日	1	6.7
合計	15	100.0

- ・保護者の用事により、子どもを泊まりがけでみてもらう短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用希望があったとした者は7.1%である。
- ・利用したいと回答した者の利用目的としては、「保護者や家族の育児疲れ・不安」（85.7%）と最も高くなっている。

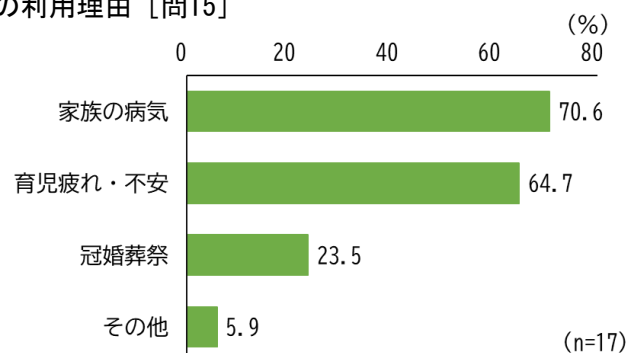
図表 82-1 保護者の用事による、短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用意向 [問 15]

	度数(人)	割合(%)
利用したい	27	7.8
利用する希望はない	320	92.2
合計	347	100.0



図表 82-2 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用理由 [問15]

	度数(人)	割合(%)
家族の病気	12	70.6
育児疲れ・不安	11	64.7
冠婚葬祭	4	23.5
その他	1	5.9
回答者数	17	



図表 43 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の理由別希望泊数 [問 20]

①育児疲れ・不安

	度数(人)	割合(%)
1泊	5	45.5
2泊	4	36.4
3泊	2	18.2
合計	11	100.0

②家族の病気

	度数(人)	割合(%)
1泊	2	16.7
2泊	3	25.0
3泊	4	33.3
5泊	3	25.0
合計	12	100.0

③冠婚葬祭

	度数(人)	割合(%)
1泊	4	100.0
合計	4	100.0

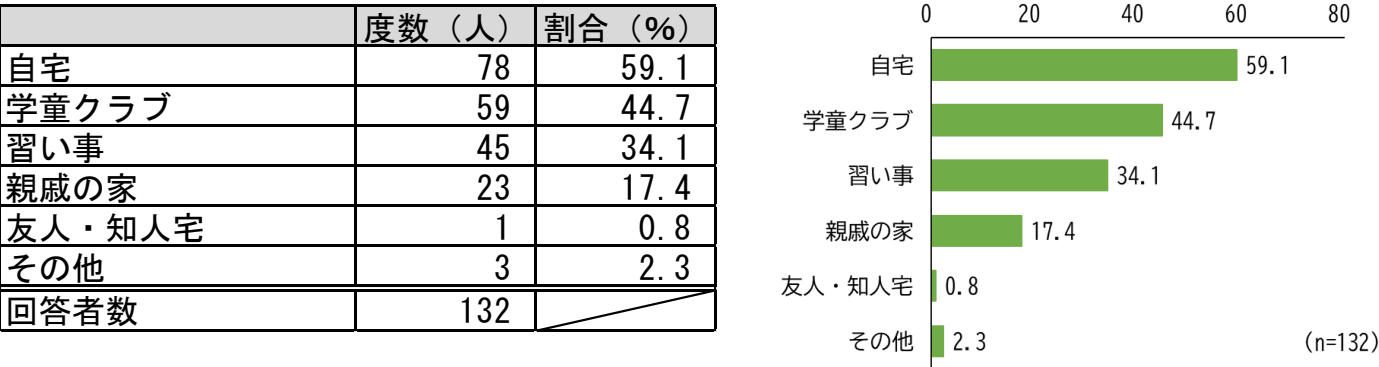
④その他

	度数(人)	割合(%)
3泊	1	100.0
合計	1	100.0

(6) 子どもの放課後の過ごし方

- ・ 小学校低学年での放課後の過ごさせ方としては、「自宅」(59.9%)が最も高くなっており、次いで「学童クラブ」(42.4%)となっている。
- ・ 自宅で過ごさせたい週あたりの日数は、「5日」(60.0%)が最も多くなっている。学童クラブで過ごさせたい週あたりの日数は、「5日」(60.0%)が最も多くなっている。

図表 83 小学校低学年（１～３年生）の放課後の過ごし方、利用日数 [問 16]

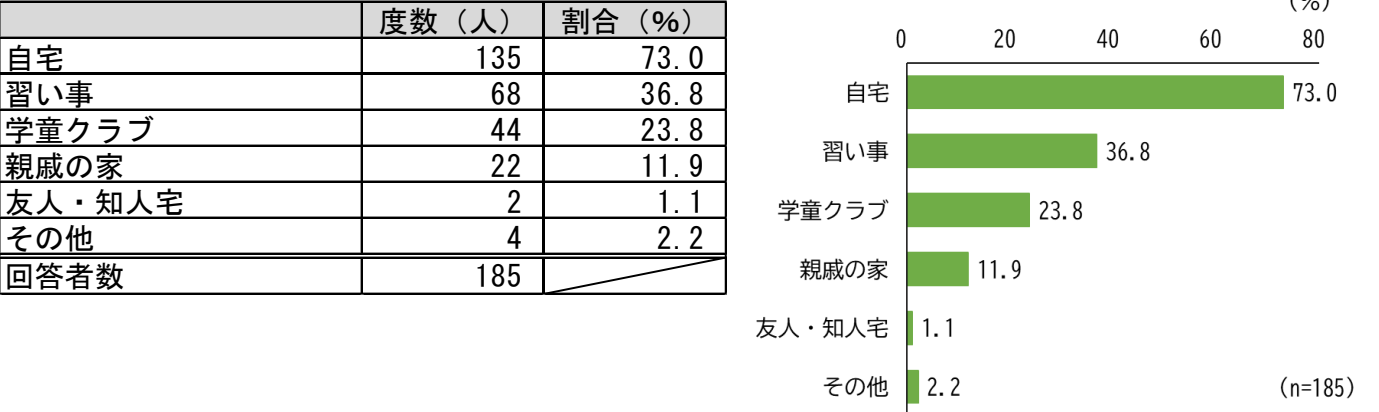


【小学校低学年時の放課後の過ごさせたい場所別にみる日数】

	自宅		親戚の家		友人・知人宅		学童クラブ		習い事		その他	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
1日	6	7.7	7	30.4	0	0.0	3	5.1	18	40.0	2	66.7
2日	7	9.0	5	21.7	0	0.0	2	3.4	16	35.6	0	0.0
3日	9	11.5	2	8.7	0	0.0	7	11.9	10	22.2	0	0.0
4日	4	5.1	1	4.3	0	0.0	12	20.3	1	2.2	0	0.0
5日	52	66.7	8	34.8	1	100.0	35	59.3	0	0.0	1	33.3
合計	78	100.0	23	100.0	1	100.0	59	100.0	45	100.0	3	100.0
平均日数	4.1		2.9		5.0		4.3		1.9		2.3	

- ・ 小学校高学年での放課後の過ごさせ方としては、「自宅」(73.0%)が最も高くなっており、次いで「習い事」(36.8%)となっている。
- ・ 自宅で過ごさせたい週あたりの日数は、「5日」(63.0%)が最も多くなっている。学童クラブで過ごさせたい週あたりの日数は、「5日」(65.9%)が最も多くなっている。

図表 84 小学校高学年（４～６年生）の放課後の過ごし方、利用日数 [問 16]



【小学校高学年時の放課後の過ごさせたい場所別にみる日数】

	自宅		親戚の家		友人・知人宅		学童クラブ		習い事		その他	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
1日	9	6.7	4	18.2	2	100.0	2	4.5	29	42.6	2	50.0
2日	7	5.2	4	18.2	0	0.0	0	0.0	24	35.3	2	50.0
3日	15	11.1	3	13.6	0	0.0	3	6.8	8	11.8	0	0.0
4日	19	14.1	0	0.0	0	0.0	10	22.7	7	10.3	0	0.0
5日	85	63.0	11	50.0	0	0.0	29	65.9	0	0.0	0	0.0
合計	135	100.0	22	100.0	2	100.0	44	100.0	68	100.0	4	100.0

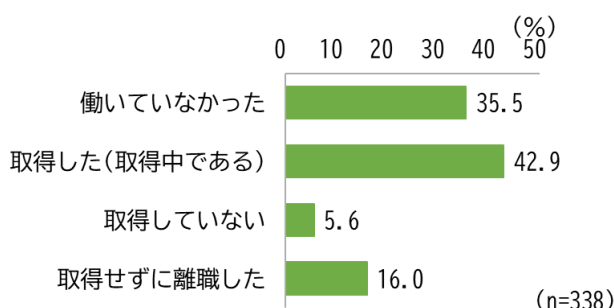
平均日数	4.2	3.5	1.0	4.5	1.9	1.5
------	-----	-----	-----	-----	-----	-----

(7) 仕事と子育ての両立（育児休業や短時間勤務制など）

- ・ 母親の育児休業は、42.9%が取得しており、21.6%は取得していないと回答している。
- ・ 父親の育児休業は、4.6%が取得しており、94.1%は取得していないと回答している。
- ・ 取得していない理由としては、「仕事が忙しかった」（32.6%）が最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」（31.0%）となっている。

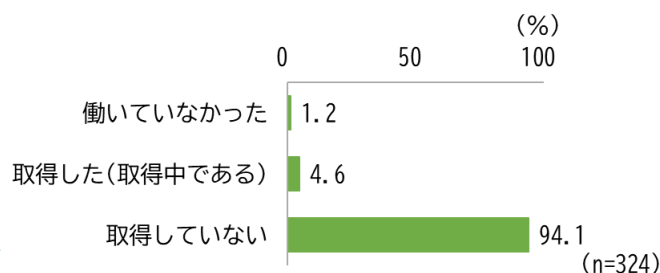
図表 85 母親の育児休業取得の有無 [問17]

	度数(人)	割合(%)
働いていなかった	120	35.5
取得した(取得中である)	145	42.9
取得していない	19	5.6
取得せずに離職した	54	16.0
合計	338	100.0



図表 86 父親の育児休業取得の有無 [問17]

	度数(人)	割合(%)
働いていなかった	4	1.2
取得した(取得中である)	15	4.6
取得していない	305	94.1
合計	324	100.0

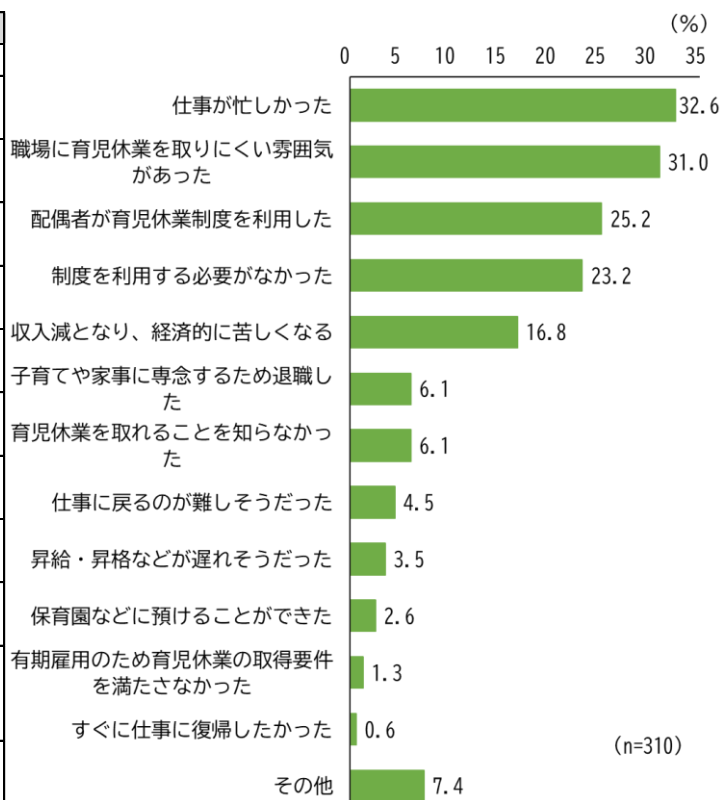


問 18 へ

図表 87 <回答対象者：育児休業を取得していない者>

育児休業を取得していない理由（複数回答） [問 17-1]

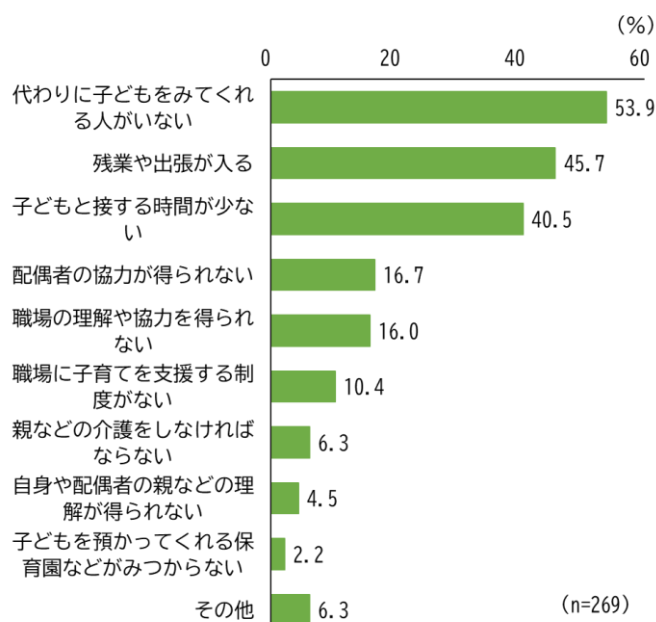
	度数（人）	割合（％）
仕事が忙しかった	101	32.6
職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった	96	31.0
配偶者が育児休業制度を利用した	78	25.2
制度を利用する必要がなかった	72	23.2
収入減となり、経済的に苦しくなる	52	16.8
子育てや家事に専念するため退職した	19	6.1
育児休業を取れることを知らなかった	19	6.1
仕事に戻るのが難しそうだった	14	4.5
昇給・昇格などが遅れそうだった	11	3.5
保育園などに預けることができた	8	2.6
有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった	4	1.3
すぐに仕事に復帰したかった	2	0.6
その他	23	7.4
回答者数	310	



- ・ 出産時に働いていなかった、または育休を取得した者にとって、仕事と子育てを両立させる上で大変だと思うことは、「代わりに子どもをみてくれる人がいない」（53.9%）が最も高く、次いで「残業や出張が入る」（45.7%）、「子どもと接する時間が少ない」（40.5%）となっている。

図表 88 <回答対象者：出産時に働いていなかった者、育休を取得した（している）者>
仕事と子育てを両立させる上で大変だと思うこと（複数回答）[問18]

	度数（人）	割合（%）
代わりに子どもをみてくれる人がいない	145	53.9
残業や出張が入る	123	45.7
子どもと接する時間が少ない	109	40.5
配偶者の協力が得られない	45	16.7
職場の理解や協力を得られない	43	16.0
職場に子育てを支援する制度がない	28	10.4
親などの介護をしなければならない	17	6.3
自身や配偶者の親などの理解が得られない	12	4.5
子どもを預かってくれる保育園などがみつからない	6	2.2
その他	17	6.3
回答者数	269	

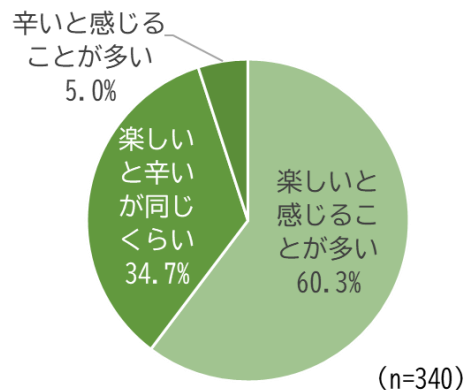


(8) 子育てに対する意識

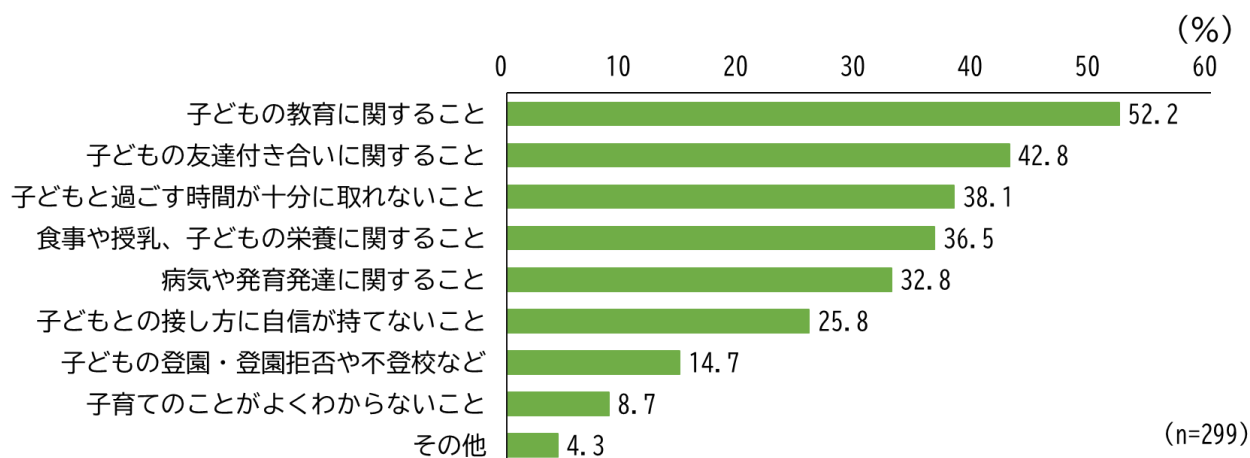
- ・ 子育てをどのように感じるかについて、「楽しいと感じることが多い」(67.0%)が最も高い。一方で、「辛いと感じることが多い」は2.2%となっている。
- ・ 子育てにおいて、子どもについての悩み、気になることとしては、「子どもの教育に関すること」(52.2%)と最も高く、次いで「子どもの友だち付き合いに関すること」(42.8%)となっている。

図表 89 子育てをどのように感じているか [問19]

	度数(人)	割合(%)
楽しいと感じることが多い	205	60.3
楽しいと辛いと同じくらい	118	34.7
辛いと感じることが多い	17	5.0
合計	340	100.0



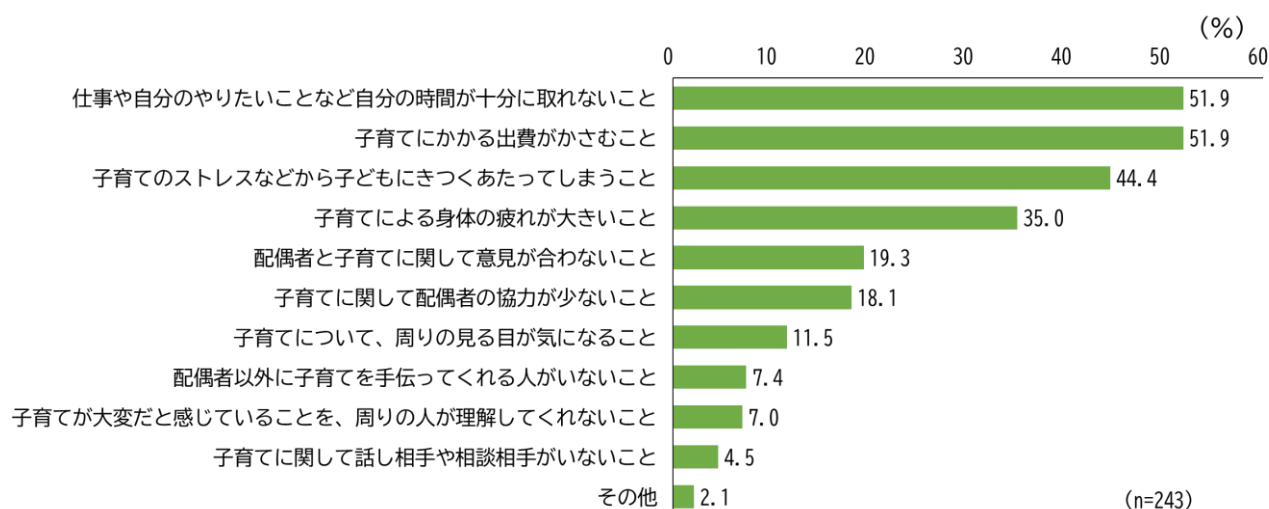
図表 90 子育てについて、子どもについて日常悩んでいること、気になること(複数回答) [問20]



	度数(人)	割合(%)
子どもの教育に関すること	156	52.2
子どもの友達付き合いに関すること	128	42.8
子どもと過ごす時間が十分に取れないこと	114	38.1
食事や授乳、子どもの栄養に関すること	109	36.5
病気や発育発達に関すること	98	32.8
子どもとの接し方に自信が持てないこと	77	25.8
子どもの登園・登園拒否や不登校など	44	14.7
子育てのことがよくわからないこと	26	8.7
その他	13	4.3
回答者数	299	

- ・ 保護者自身についての悩み、気になることとしては、「自分の時間が十分に取れないこと」「出費がかさむこと」（51.9%）がそれぞれ最も高く、次いで「ストレスから子どもにきつくあたってしまうこと」（44.4%）となっている。

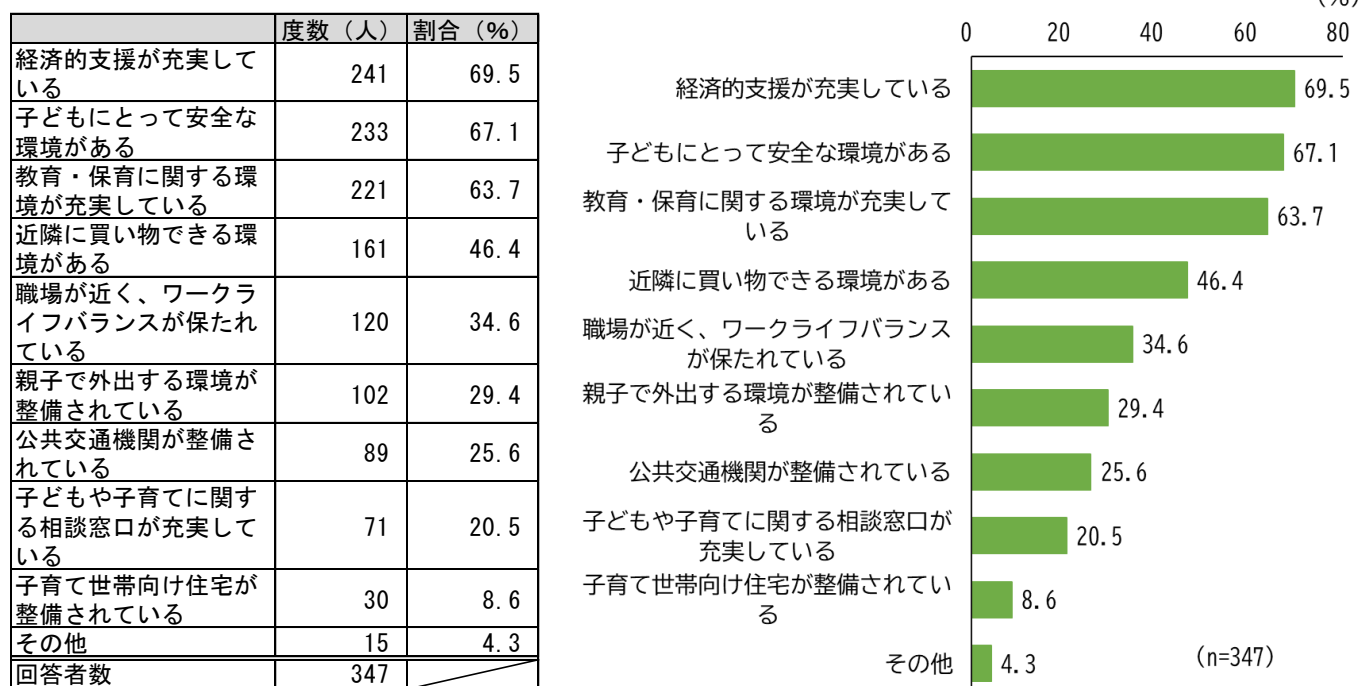
図表 49 子育てにおいて、保護者自身が日常悩んでいること、気になること（複数回答）[問26]



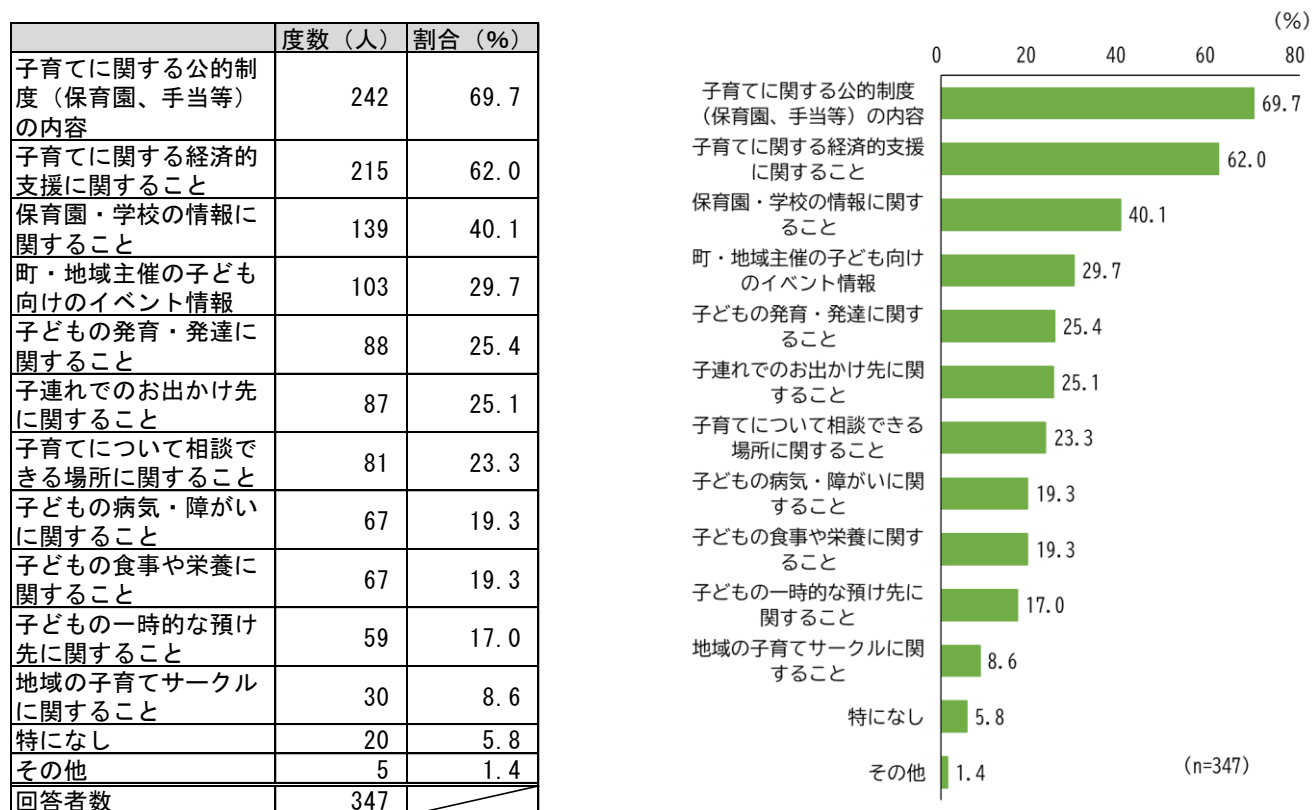
	度数（人）	割合（％）
仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分に取れないこと	126	51.9
子育てにかかる出費がかさむこと	126	51.9
子育てのストレスなどから子どもにきつくあたってしまうこと	108	44.4
子育てによる身体の疲れが大きいこと	85	35.0
配偶者と子育てに関して意見が合わないこと	47	19.3
子育てに関して配偶者の協力が少ないこと	44	18.1
子育てについて、周りの見る目が気になること	28	11.5
配偶者以外に子育てを手伝ってくれる人がいないこと	18	7.4
子育てが大変だと感じていることを、周りの人が理解してくれないこと	17	7.0
子育てに関して話し相手や相談相手がいないこと	11	4.5
その他	5	2.1
回答者数	243	

- ・子育てをしやすいまちだと感じる条件は、「子どもにとって安全な環境がある」（70.1%）が最も高く、次いで「教育・保育に関する環境が充実している」（63.6%）、「経済的支援が充実している」（60.9%）となっている。
- ・子育てについてほしいと思う情報は、「経済的支援に関すること」（66.3%）、「公的制度の内容」（56.5%）といった公的支援に関する事項が高くなっている。

図表 91 子育てしやすいまちだと感じる条件（複数回答）[問21]

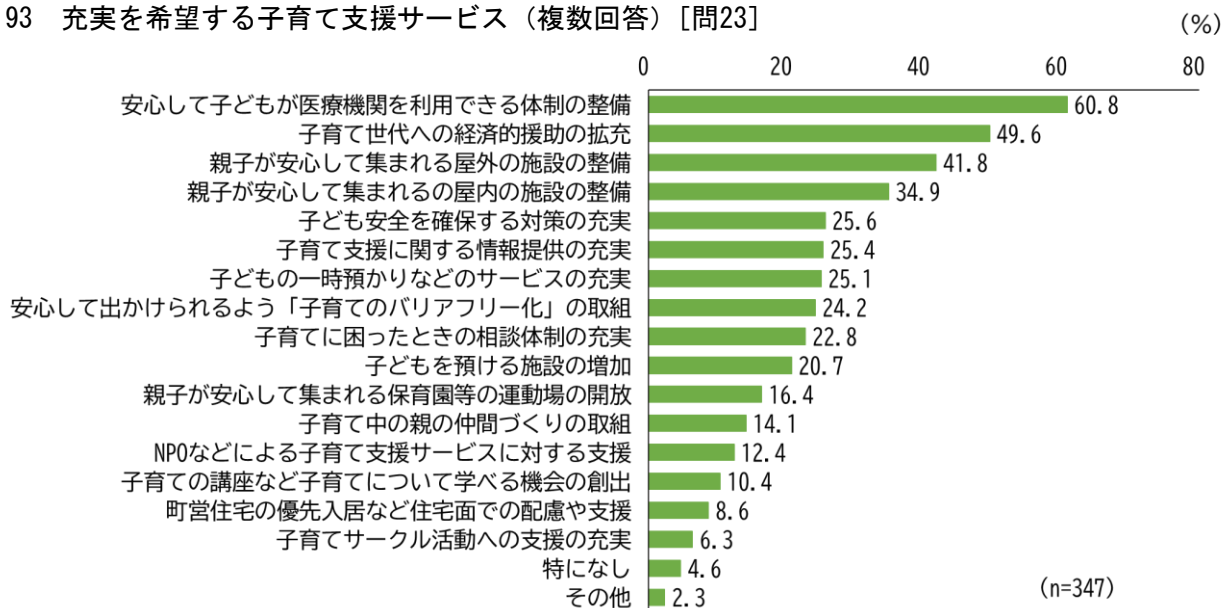


図表 92 子育てに関してほしいと思う情報（複数回答）[問22]



- ・子育て支援サービスで充実を希望するのは、「医療機関を利用できる体制の整備」（60.8%）が最も高く、次いで「経済的援助の拡充」（49.6%）となっている。
- ・辰野町の子育てに関する満足度としては、「子育てしやすい」「犯罪被害にあうことが少ない」の満足度が高い一方で、「医療体制」の満足度が低い傾向がみられる。

図表 93 充実を希望する子育て支援サービス（複数回答）[問23]



	度数 (人)	割合 (%)
安心して子どもが医療機関を利用できる体制の整備	211	60.8
子育て世代への経済的援助の拡充	172	49.6
親子が安心して集まれる屋外の施設の整備	145	41.8
親子が安心して集まれるの屋内の施設の整備	121	34.9
子ども安全を確保する対策の充実	89	25.6
子育て支援に関する情報提供の充実	88	25.4
子どもの一時預かりなどのサービスの充実	87	25.1
安心して出かけられるよう「子育てのバリアフリー化」の取組	84	24.2
子育てに困ったときの相談体制の充実	79	22.8
子どもを預ける施設の増加	72	20.7
親子が安心して集まれる保育園等の運動場の開放	57	16.4
子育て中の親の仲間づくりの取組	49	14.1
NPOなどによる子育て支援サービスに対する支援	43	12.4
子育ての講座など子育てについて学べる機会の創出	36	10.4
町営住宅の優先入居など住宅面での配慮や支援	30	8.6
子育てでサークル活動への支援の充実	22	6.3
特になし	16	4.6
その他	8	2.3
回答者数	347	

図表 94 子育ての環境や支援への満足度 [問24]

